

付 属 資 料

資料－１ 本調査において実施した業務の概要

1. 平成 22 年度業務の内容

平成 21 年度調査においては、跡地利用計画の計画策定に向けた中間的な到達点として位置づけられている「全体計画の中間取りまとめ」に向けた関係者による意見交換を促進することを目的とし、全体計画の中間取りまとめの『素案』の作成を行った。

本年度調査においては、『素案』において予備的な取りまとめに留めている「交通分野」と「周辺市街地分野」について取りまとめるとともに、「土地利用分野」、「文化財・自然環境分野」等についても関連調査等の最新の成果を再確認すること等により、計画づくりの方針の修正・追加を行い、全体計画の中間取りまとめの『案』を作成した。

1) 有識者等との意見交換の実施

① 有識者との意見交換の実施

- ・ 先見性に富み、幅広い発想に基づく検討を進めるために、分野別に見識をもった専門家や先進的に取り組んでいる地方公共団体との意見交換会を開催

② 関連調査の担当者等との意見交換の実施

- ・ 交通や周辺市街地整備にかかり担当者等との意見交換会を開催し、現在の検討状況を把握し、「全体計画の中間取りまとめ」の案に反映

2) 地権者との意見交換

- ・ 平成 21 年度調査成果（「全体計画の中間取りまとめ」の素案）について、若手の会から意見聴取し、その成果を「全体計画の中間取りまとめ」の案に反映

3) 県民との意見交換

- ・ 普天間飛行場のまちづくりについて、県民・市民等と共に考える「場」の創出、協働によるまちづくりの機運を醸成するイベントとして「跡地からはじめる中南部都市圏のまちづくり（緑の回廊）」をテーマに県民フォーラムを開催

4) 分野別の計画方針の取りまとめ

- ・ 交通分野、周辺市街地分野における計画方針の取りまとめ
- ・ 『素案』において取りまとめた分野別計画方針の再確認

5) 「全体計画の中間取りまとめ」の案の作成

- ・ 「全体計画の中間取りまとめ」に向けた『案』を作成

6) 有識者懇談会の開催

- ・ 平成 22 年 10 月 18 日 第 1 回有識者懇談会
- ・ 平成 23 年 2 月 16 日 第 2 回有識者懇談会

7) 審議委員会の開催

・平成23年3月7日 審議委員会開催

2. 調査業務実施工程（平成22年度）

	検討作業	会議
平成22年 9月		第1回ワーク
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・有識者、関連調査の担当者、地権者等 ・県民 	第1回有識者懇談会 第2回ワーク
11月	<ul style="list-style-type: none"> ■準備 <ul style="list-style-type: none"> 【意見交換会】 <ul style="list-style-type: none"> — 人選 等 【県民フォーラム】 <ul style="list-style-type: none"> — テーマ選定、人選等 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■有識者、関連調査の担当者、地権者等との意見交換の実施 	第3回ワーク
平成23年 1月		第4回ワーク
2月	<ul style="list-style-type: none"> ■県民フォーラムの実施 	第7回県民フォーラム 第5回ワーク 第6回ワーク 第2回有識者懇談会
3月		審議委員会 第7回ワーク

資料－２ 普天間飛行場跡地利用計画方針策定審議委員会の記録

1) 日時、場所

- と き : 平成23年3月7日(金)、13:00～15:00
- と ころ : カルチャーリゾートフェストーン

2) 出席者(敬称略)

○ 委員

- | | |
|-------|------------------------|
| 尚弘子 | ／琉球大学名誉教授 |
| 黒川光 | ／東京工業大学名誉教授 |
| 池田孝之 | ／琉球大学工学部教授 |
| 上間清 | ／琉球大学名誉教授 |
| 堤純一郎 | ／琉球大学工学部教授 |
| 宮城隼夫 | ／琉球大学工学部教授 |
| 富川盛武 | ／沖縄国際大学学長 |
| 平良哲 | ／(財)沖縄観光コンベンションビューロー会長 |
| 小渡玠 | ／宜野湾市商工会会長 |
| 仲村清 | ／宜野湾市自治会長会会長(自治会) |
| 大川正彦 | ／普天間飛行場の跡地を考える若手の会会長 |
| 知念榮治 | ／沖縄県経営者協会会長 |
| 荻堂盛秀 | ／沖縄県商工会連合会会長 |
| 國場幸一 | ／沖縄県商工会議所連合会会長 |
| 宮城信雄 | ／沖縄県医師会会長 |
| 仲村信正 | ／日本労働組合総連合会・沖縄県連合会会長 |
| 大城節子 | ／(社)沖縄県婦人連合会会長 |
| 又吉信一 | ／宜野湾市軍用地等地主会会長 |
| 佐喜眞祐輝 | ／宜野湾市軍用地等地主会副会長 |

○ オブザーバー

- | | |
|------|-------------------|
| 槌谷裕司 | ／内閣府大臣官房審議官 |
| 細田大造 | ／内閣府沖縄振興局跡地利用促進室長 |

○ 事務局

- 川上好久、古波蔵健、大城範夫、高江洲強／沖縄県
安里猛、山内繁雄、比嘉秀夫、新垣勉　／宜野湾市

3) 配布資料

- 資料－1 跡地利用計画策定に向けた取り組みの進捗状況
- 資料－2 跡地利用計画策定に向けた関連調査の概要
- 資料－3 普天間飛行場跡地利用計画 全体計画の中間取りまとめ(案)

4) 質疑内容（発言順、敬称略）

(1) 跡地利用計画策定に向けた取り組みの進捗状況（資料1）、関連調査の概要（資料2）について

堤委員：これまでに実施した調査成果は公表されているか。

事務局：各分野の方針の設定は各年度に調査を終えており、報告書という形で沖縄県企画調整課のホームページで公開して頂いている。

(2) 普天間飛行場跡地利用計画 全体計画の中間取りまとめ（案）（資料3）について

池田委員：本日は案を絞る等の段階ではないと理解しているので、疑問点などを述べたい。

①公園・緑地の確保から計画をはじめるとは非常に良い計画の立て方だと思う。一般的には、残った土地が緑地等にあてられ、緑地がいびつになったり、使いものにならなくなることが多い。骨格的な公共交通も含めて大事な空間をしっかりとっておさえて土地利用を考えていくという方向で良いだろう。

②南北方向に幹線道路が2本あり、一方に鉄軌道が配置されているが、これらを1本化できないか。鉄道駅での乗換等を考えると駅は道路と一緒にの方が良く、道路と密接につながる必要がある。また南北軸は宜野湾市でおさまる話ではないため中南部都市圏にどのように貢献するかを、より広い地図の位置づけで説明することが必要だろう。

③まちづくり構想では、「比較案3と4の合併案」が良いのではないかと。国営公園を目指すのであれば、まとまった公園100haに加えてネットワークとしての緑が必要と考える。個人的には200haの緑地を望む。まとまりや西海岸を見渡せるという立地を考慮すると「比較案3」が良く、既存集落や文化財の保護を考えると「比較案4」のネットワーク型が良いだろう。また、商業地と公園・緑地を隣り合わせて配置することが非常に重要であり、公園・緑地に面する商業地は価値が高まるはずである。この利用の仕方については、ディベロッパーや企業関係者などに意見を伺っていくのが良いのではないかと。

④普天間の跡地利用によって周辺市街地がどこまで改善できるか。これまでの跡地利用では周辺市街地の改善ができていない。土地の交換や周辺の再開発と連動させるなど、跡地整備と関連させて周辺市街地の改善をどのように考えるかは重要な話であるため、今後考えていってほしい。

⑤緑を含めた考え方はとても良いので、「環境モデル都市」などを意図した良いモデルを考えていってほしい。

事務局（県）：①中部縦貫道路はノンストップの高速道路的なイメージであり、国道330号のバイパス的な機能を持つと捉えている。現国道330号を拡幅するのは相当難しい。ただし、幹線道路で基地が分断されることは好ましくないため構造面も工夫していきたい。さらに南北幹線1号を整備し、そこに鉄軌道が重なっているイメージである。道路部局では、跡地全部が市街化すると幹線道路が2本必要というイメージをもっているようであるが、これについては、現在、国、県で進めている高規格道路ネットワークの調査の検討結果をみながら考えていきたい。

②公園は、まとまった公園か、分散した方がよいかなど、県、市、地主会でも様々な意見があるようだが、普天間飛行場跡地を緑豊かにしたいという気持ちは一つであり、

この4案以外の新たな案がでてくるかもしれない。今回の案はたたき台であり、今後は公園のあり方、事業化を進めていくにはどうしたら良いかなどを含めて検討が必要と考えている。

事務局（市）：周辺市街地は基地があるためにいびつなまちになっている。このため普天間飛行場の跡地利用と一体となって周辺市街地の環境整備に取り組んでいきたいと考えている。現在、周辺市街地に関する様々な調査を行っており、これらの成果も踏まえて跡地利用に取り組んでいきたい。

仲村委員：①公園の案は個人的に分散案がよいと考える。また、神山周辺の緑地は手つかずで60年以上も残っているため緑地帯の公園として残してほしい。

②並松街道には3200本の松の木があった。歴史の道である並松街道をぜひ復元してほしい。

③基地東側の市街地は、国道330号のバイパスがないために宜野湾、神山、長田などでは慢性的に渋滞している。字宜野湾から市役所につながる基地周辺の道路を早めに整備してほしい。

事務局（市）：①字宜野湾から中原にかけては非常に重要な緑が残されており、これら緑地を大切にしたいと考えている。

②基地東側の市街地については、宜野湾11号という道路が約20年前から計画されているが進まない。この道路を含めて一つ一つ実現化に向けて取り組んでいきたい。

富川委員：今回の「まちづくり構想」からは、自立経済に向けた筋道がはっきり見えない。琉球大学等の知の集積の活用やアジアのダイナミズム等の時代の潮流から見出させる産業面のコンセプトが見えにくい。オーシャンビューだけではたしてどうか。基地収入をうめて余りある経済活動がなければ、マクロ的にみれば縮小均衡にいく危険性もある。トータルとして全部盛り込まれていることは素晴らしいことであるが、何をメルクマールにするのか、何をマックスにするのか。例えば、経済の活性化も含めたメルクマールを明確にしないと、4つの比較案の判断ができない。沖縄の自立発展につながるシナリオを明確にした上で道路や公園の整備があるのではないかと。今後は、「知の拠点」と「自立経済」につながる道筋をもう少し明確にしてほしい。

事務局（県）：普天間基地480haは、過密な中南部地域における巨大な開発空間として期待が高まっている。県では跡地利用に関する法律を内閣府等と議論しているところであり、その中で、産業振興用地の取得も含めて制度要望し、今後の沖縄振興の成長のエンジンになる産業施策を展開していきたいと考えている。具体的なものが位置づけられているわけではないが、従来から議論のあるサイエンスパーク的なもの、あるいはリゾート空間、知の拠点などの議論を深めて、位置づけを考えていきたい。

知念委員：①個人的には、居住ゾーンと振興拠点ゾーンを緑地空間で分ける比較案3が一番良いと思うが、埋蔵文化財等の対応としては比較案4も考えられるだろう。

②産業振興をどうするかが大きな課題であり、軍用地料に代わる外部からの収入を得られる方法を考える必要があるだろう。産業関係の地域をどうするかについては、嘉手納以南の他地区も含めて全体の中で産業配置を考える必要がある。個々に考えていたのでは沖縄全体としての産業の効率的配置が難しいのではないかと。

③跡地利用は白地に絵をかくので、電気・水道・ガスなどを全て地下に埋めることができれば、台風等の心配がなくなり、景観も非常によくなる。これには膨大な費用を要するが、まちは何百年と持続するので、地下埋設の検討をお願いしたい。

事務局（県）：①産業振興については、「中南部都市圏広域構想策定調査」において今年度から来年度にかけて、嘉手納飛行場から南の6つの基地跡地を対象に県の自立経済につながる跡地利用を検討し、各跡地で新たな産業をどのように起こすかを議論している。各跡地に親和性のある産業を配置し、各跡地が将来的に如何なるものを起こしていくことが必要かを広域的な観点から県としてまとめる作業をしている。各市町村は、この成果を参考にしながら跡地利用計画を固めていくことを考えている。

②電気・水道・ガスの地下埋設は、台風対策、景観面から非常に重要と考えている。跡地利用は、沖縄の振興を先導するまちづくりとして、地下埋設も進められるよう考えていきたい。

大城委員：「公園・緑地」が中心の計画のようだが、生活者にとっては「商業地」が重要になる。これまでの説明に「商業地」がでてこなかったが、「商業地」は都市計画の中には入っていないか。

事務局（県）：比較案の赤色部分が都市拠点ゾーンという位置づけで、その中に、商業機能や市民センター等の行政機能を配置することを考えている。

上間委員：本日は、個別の議論をする場ではないという前提で意見を申し上げたい。今後の交通関連の検討の参考にしてほしい。

①道路ネットワークは概ね良いと思うが、そこに環状道路の構想も含めて検討してほしい。那覇市、沖縄市には環状道路の位置づけがあるため普天間基地及び周辺でも環状道路を検討してほしい。環状道路はネットワークの分かりやすさという意味でも非常に重要だと思う。

②軌道系交通は道路空間を利用することが前提になるため、道路を考える場合も軌道系交通をどうするかと連動させて、規格や規模のあり方を検討すべきと考える。

③公園との関係で、地域の景観計画と関連させたパークウェイという構想も検討に値するのではないか。

④公園 100ha は大きいので、その他の開発地との面積的な整合をどのように考えていくか。100ha は見直すこともあり得るのではないか。

⑤中間取りまとめ（案）は、今後の検討の前提になると思うが、今回提示された案以外は検討しないか。環境をはじめとして注目すべき変化もあるだろう。ここにでた案以外にも検討する余地があるというスタンスでまとめをしてはいかがか。

事務局（県）：①環状道路は、跡地の中に入れるのか、周辺を巻き込むか等について今後考えていきたい。

②道路空間は公共交通と連動させて検討していく。

③公園内のパークウェイは、緑豊かな景観に配慮した道路として考えていきたい。

④公園の適正規模は現段階で想定し難いが、平成 14 年の沖縄県広域緑地計画の中で 100ha 以上という位置づけがでてきた。中南部都市圏という 110 万人が暮らす地域に、どの程度の規模の公園が必要かについて今後詰めていきたい。

⑤中間取りまとめ（案）は、来年～再来年度を目標に「中間取りまとめ」として“(案)”を取っていきたい。この時に 4 案以外を受け付けないということはない。今後とも新たな良い案がでてくるのではないかと考えている。

事務局（市）：現在、市では都市交通マスタープランを策定中である。その中でどのように環状道路を反映できるかは今後の検討課題である。基地内だけの環状化か、既存国道も含めた環状道路かなど、マスタープランの中で検討したいと考えている。

小渡委員：基地は私有地が約 93%を占めるため、用地買収など計画がスムーズに行くのか心配である。早めに県や市が用地を確保しておかないと絵が実現しないだろう。

大川委員：①若手の会は平成 20 年に公園、交通に関して「私たちの考え」を策定し、地主会との意見交換などを重ねてきた。

②普天間跡地の真ん中に、はじめて公共交通軸が図示された。鉄軌道は、中南部都市圏の発展のため、(仮)普天間公園の成功のためには、那覇空港からのアクセスは早い方がよく 20 分程度の速達性が必要と考える。鉄軌道は実現可能か。

尚会長：沖縄は日本で唯一鉄軌道がない県である。沖縄の環境を良い方向にもっていくためにも鉄軌道は素晴らしいと思うが、これについてはどうか。

事務局(県)：①鉄軌道は県民からの期待が非常に高いテーマになっている。復帰後に道路整備が進展してきたものの、都市部の交通渋滞はいかんともし難い。渋滞は観光客からも不評をかっており、今後の渋滞緩和や北部を睨んだ速達性、大量輸送について、どのような方法が良いかを議論する時期にきていると考える。昨年度は、中南部を中心とした返還跡地の成長戦略を検討する中で、鉄軌道の検討を行った。鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入については、20 年先を展望した「沖縄県総合交通体系基本計画」を策定するなかで議論していくことになっている。また国でも調査を進めており、そこでの需要予測等を参考にしながら、県の基本計画の議論の中で整理をしていきたい。県民の期待に応えるような形の展開ができればと考えている。

②用地買収に関連して、跡地利用計画に対する地権者の合意形成の遅れが懸念材料である。また、地権者が県外に散在する状況もでてきており、こういったことの防止の観点から、公共用地として買い取る仕組みができないかを議論している最中である。

又吉委員：絵を実現するためには地権者の合意形成が不可欠になると考える。現在の軍転法、沖振法は来年きれるが、普天間の跡地利用、これからの沖縄県の自立に向けては、恒久法が不可欠と思っている。これを踏まえた上で、まちづくりの目標の「地権者の協働による基盤整備や用地供給等を進めることにより、地権者の将来の生活設計につながる土地活用の実現」を基本に今後の絵を描いてほしい。沖縄県の自立経済の実現のためには地権者がカギを握っていると思う。できるだけ国、県、市と情報を共有し、希望だけでなく、何が実現できるかを見据えて、皆さんの力を借りながら取り組んでいきたい。

尚会長：これまで地権者が苦しんできたので、それを踏まえて県の方でも対応して頂きたい。

黒川副会長：①中間取りまとめ(案)は、交通網や土地利用の配置など、物理的に普天間飛行場跡地にどんな機能をどの辺に配置したら良いかを描いたものである。これに対して、皆さんから、「その中に読み切れないものがある」というご意見を頂いた。

例えば、富川委員からは「どんなリーディング産業をどのように配置するか」、知念委員からは「軍用地料収入とバランスして、あるいはプラスになる活動はどのようになるかが見えにくい」というご注意を頂いた。又吉委員からは「返還前から地権者の合意をとる仕組みづくりが必要」というご意見。また尚会長や池田委員からは「低炭素社会や環境問題に対して新しい開発の中でどう対応するか」というご意見。これに対して「電気・ガス・水道を地下埋設する。」という具体的な提案があった。これは大変重要なことで、グリッドシステムや太陽光発電のシステムにも関連するだろう。普天間飛行場跡地では環境問題に対してどんな施策をうっていくのがよいのか、あるいは世界に冠たるモデル地区をつくるのか、今までとは違った生活スタイルを考える地域

にするのかなど、ここの商品を世界に売り出すことを今から考えなければいけない。
②今回、新しく公共交通がでてきたが、どのような性格の鉄道を入れたらよいか。従来のように道路の上下空間に配置するというだけではないだろう。事業主体が誰になるかで、細長い緑の上の道路以外の空間に鉄道を配置した方がよいというものもある。また、那覇空港からの高速性を持たせた方がよいのか、所要時間を犠牲にしても多くの駅で乗り降りできる鉄道にした方がよいのか。さらに、普天間跡地内に駅が3つあるのがよいのか、1つでよいのかなど、色々考えられ、それによって鉄道の性格が決まってくる。様々な可能性があるため、これをどのように整理するかが今後の課題になるだろう。

尚会長：限られた沖縄の土地の中で、最適な交通網や効率的な土地利用のあり方を考えていくことは極めて重要なことである、鉄軌道については国の力をかりながら、国・県・市が一体となって取り組み、普天間飛行場が返還された時には、東洋一の新しいまちが誕生することを心から念じたい。

以上

資料－3 普天間飛行場跡地利用計画方針策定にかかる有識者懇談会の記録

■ 有識者懇談会（第1回）

1) 日時、場所

- 開催日時：平成22年10月18日 14:00～16:00
- 開催場所：沖縄県庁8階 第1・2会議室

2) 懇談会委員（敬称略）

- ・東京都市大学都市生活学部都市生活学科 教授 : 小松史郎
- ・(株)カヌチャベイリゾート 代表取締役 : 白石武博
- ・北中城村 政策調整官 : 高嶺晃
- ・(株)地域計画研究所 代表取締役 : 田島利夫
- ・琉球大学工学部環境建設工学科 教授 : 堤純一郎
- ・NPO 沖縄県建築設計サポートセンター 理事長 : 中本清
- ・(有) MUI 景画 : 山口洋子
- ・普天間飛行場の跡地を考える若手の会 副会長 : 呉屋力

3) 事務局出席者（敬称略）

- ・沖縄県 企画部企画調整課 : 古波蔵健、下地正之、高江洲強
- ・宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 : 比嘉秀夫、新垣勉、照屋盛充
- ・(財)都市みらい推進機構 : 稲岡英昭、秋場悠介
- ・(株)日本都市総合研究所 : 荒田厚、茂手木功
- ・玉野総合コンサルタント(株) : 堀田保将、中垣淳一、水野清広、久松隆司
- ・(株)群計画 : 大門達也

4) 意見交換の要旨（敬称略）

堤 : 平成7年から検討が続けられているが、一貫して流れているものはあるのか。例えば、区画整理事業を実施する方針があるかもしれないし、大規模公園を整備することも大分以前から議論されていると思う。宜野湾市が独自に検討してきた頃と比べて、劇的に変化してきたのか、あるいは基本方針のような流れがあるのか、見えないところがあるので教えて欲しい。

荒田 : 山口委員も参加していた跡地基本構想の段階では大規模公園の話はなく、100ha規模の(仮)普天間公園はその後検討された。この点は大きく変わっている。

- ・幹線道路網も基本構想後に具体化しており、中南部都市圏の道路網としてどの道路を整備するかという計画が検討してきた点も大きな変化である。
- ・一方、土地利用については、基本構想(平成7年)、基本計画(平成9年)の段階から大きな変化はない。
- ・平成15年に始まった県と市の共同調査で議論してきたことは、一つは広義での良好な

環境をつくり、沖縄振興のための企業誘致を図ろうという点大きい。もう一つは、多くの地権者が個別に利用しては開発の受け皿とすることが難しいため、地権者がまとまって土地を活用することについて努力しないかという声掛けを続けてきている。

- ・また、住宅需要は中南部地域の内需はそろそろ頭打ちという認識の中で、返還を期に振興策としての土地利用をどうすべきかを打ち出そうということについて検討してきた。ただ、残念なことに県内外に呼びかけるタイミングに至っていない。これは返還時期がはっきりしないため、いつ使えるかという問いかけに答えられないこともある。

堤 : 2点気になることがある。

- ① 以前、宜野湾市役所に大きな模型が飾ってあったが、都市的土地利用を展開した夢のある街になっていた。一貫して都市的土地利用の方針が持たれてきたようだが、一方では住宅という見方や観光利用の考え方も出てきている。
 - ② また、嘉手納以南の基地返還を踏まえると、牧港補給基地の沖側の埋め立てが那覇港の一部として環境影響評価に入っている。このようなことを踏まえ、時系列で見ていく必要がある。例えばキャンプキンザーがまとめて返還されれば、都市的土地利用はかなりの部分が引っ張られるだろう。時系列的な問題で、一貫してきた都市的土地利用でいいのかという問題がある。
- ・ずっと検討しているものを壊すわけにはいかないが、見えない時系列の中で進むという危険性を持っているという事実を受け止めないといけない。

白石 : レポートの3, 4ページで広域における機能的なことに触れている。

古波蔵 : 5つの基地跡地の機能分担を示しており、平成19年度の有効利用ビジョンの成果であり、これを具体化していく。

白石 : これらが全て返還された時に、これらがどうやって利用されるのかが上位の計画等で位置づけられないと、普天間だけこうやると言っても、過剰なものになったり、足りないものが出てきたりする。

- ・元に戻すわけにはいかないが、5つの跡地の機能分担がなぜこのようになっているのかが分からない。普天間を見ても、長所や弱み等、そこにいたった理由がある筈である。なぜ、その機能を入れるかが明らかにされないままにはめられてはいけない。それぞれの跡地の特性を踏まえた上でこうなりましたということが語られた上で、普天間の跡地について語られるべきである。検討している土地利用が有効であるというロジックが見えないといけない。
- ・前回は指摘があったと思うが、その時々で流行っているものを入れても意味がない。今年度は、全体を考える中で、なぜこうなるのかという知見が入ってくると議論が深まってくるのではないか。
- ・事業者としては、5箇所あれば一番儲かりそうなところで手を挙げる。一番可能性がありそうなところとなると、那覇に一番近い跡地が最も良く見える。それぞれの特性を踏まえ、この点は良い、この点は悪いと整理した上で、こちらに来ませんかという話しをしないと開発計画が絵に描いた餅になってしまう。

小松 : 地域計画の検討は、目標年次と対象地域が与えられないと始まらないが、返還が決まらないため難しい状況にある。都市的土地利用を考えると、嘉手納以南で最適な箇所が普天間ではなく、キャンプ・キンザーかもしれない。事業は普天間で完結してはおかしくて、中南部地域全体の中での位置づけをどうするか議論しないといけない。

- ・また、目標年次がこんなに曖昧なまま進めていいのか。少なくとも、基本構想において

はこれが目標年次であるということを押さえて議論すべきではないか。

- ・上位計画における位置づけが曖昧である。これまでは21世紀ビジョンを上位計画として置いて話しを進めればよいと思っていたが、知事が変わればこの上位計画を作り直さざるを得ないということになる。県の計画と知事の方針が違っていてもいいのかということだ。知事の任期と5カ年計画が異なることはどこでも起きるが、今回まさにねじれが生じそうだ。平成23年度に基本構想を作るという時に、上位計画と整合性をとるようにしないと、新知事が誕生したときに新しい方針と違った時にいつどこで調整するかという問題がある。
- ・上位計画、計画区域、目標年次の3点があいまいなまま議論することは避けなければいけないが、それが難しい中でどう議論すべきかということだ。

白石：他の4つの跡地でも同じように議論しているのか。

古波蔵：基地跡地利用計画は市町村が主体となって議論しているが、普天間だけは規模が大きいため県と市が合同で議論している。

白石：市町村の皆さんがこうしたいということが計画に載ってくるということか。

古波蔵：平成18、19年度の調査だが、各跡地の地形や環境問題、地主会や市町村単位の計画を網羅して検討したものが成果だ。

白石：何十年も基地として使われてきた土地を全く新しい方法で使おうとする中で、地元の希望はあるだろうが、県としての使い方があるはずだ。知事が変わったとしても、その計画には一定の合理性が合った方が良く、計画が変わるにしろ変わらないにしろ、なぜそういう使い方を考えたのかというロジックを県として持っておくべきだ。

- ・自然に優しくて、エコで街路樹がきれいでというのはどこでやっても同じで、どの跡地でも当然やるべきだが、その中で跡地の位置の違いによる特性等を前段で整理し、議論の結果でこの跡地ではこういう使い方が最適だろうとしておく必要がある。
- ・企業誘致、産業誘致について、企業から見れば儲かるところに出て行く。マーケットインな考え方をここでしっかり議論してアウトプットを出していくかが重要である。こういうことを議論していけば、その成果が無駄にならない。
- ・宜野湾については宜野湾だけで議論しても、隣で同じ開発をしているということになりかねない。例えば、那覇ではワンプライス型のホテルが過剰供給になって四苦八苦している。作る時は他企業も自分たちと同じものを作るということを議論していない。過去はこういうものはなく、今流行っているからといって空き地が出たらワンプライス型のホテルを作ってきたが、これだけ供給されることは想定していなかった。その結果那覇市内で5000室とも1万室とも言われる過剰供給になり、価格破格も起こっている。
- ・都市計画でも同様のことが言える。どこをどう使えるかという議論を最初にしておいて、普天間ではどう利用するかということのを他エリアを見ながら検討することが成功への近道だと思う。

古波蔵：レポート4ページのビジョンは十分検討し、基本的事項ということで作ったものだが、次回にも資料を提示してご説明できるようにしたい。

- ・今年度実施する広域構想の調査は、この4ページをさらに具体化するもので、委員会形式で2カ年かけて十分議論していく。本来はこちらが先で普天間の議論はその後というのが理想的だったかもしれないが、既にキンザー等の個別跡地も動いており、地元が積み上げてきた成果も活かしながら広域構想を検討したい。

白石：ビジョンが悪いということではなく、全体として沖縄が新しい価値を生み出していく

ことが県として最も望ましい形だと思っているので、その辺の情報を共有していけるといい。

荒田 : 普天間の跡地利用基本方針は平成18年2月に策定しているが、キンザーが出てきたのはその後で、嘉手納以南、中南部地域の振興に繋がるではないかという話しが持ち上がってきた。そこから沖縄21世紀ビジョン、それに基づく戦略的な跡地利用に関する現在の検討に繋がっている。

- ・キンザーがない頃は普天間が中心だった。他の返還地は50から60ha程度で、那覇軍港も那覇の街なかのものとして使えばいいという認識だった。新しいものは普天間の480haということで、広域的な施策にも繋がる話しだった。ところが、嘉手納以南となると中南部地域全体が構造改革される可能性があるのではないかということになってきた。

白石 : 観光の世界から言うと、沖縄県に室数がこれくらいあって、このようなお客さんを呼ぶために供給がどの程度必要かというロジックを行政の中で持つべきだと思う。なぜならば、観光客1000万人、1500万人という県の目標値があるが、いろいろなところの観光開発の客室をリゾート的に作ってしまえば、全部おかしくなってしまう。

- ・観光客の集客目標値に対して必要な客室数がどれくらいあるか。空き地があるからと言って、リゾート開発を行い、アジアのハイエンドだと言ってやっていると、一地域としてはいいが、全体としては必ずオーバーシュートしてしまう。この辺りは市町村では分からない部分なので、県がこの程度が望ましいという数字を観光企画課などを含めた協議の中で総量として押さえておいた方がいい。
- ・こういうことを考えておかないと、新都心に住宅地と商業地を作ったら周辺地では地価が落ちてしまったのと同じになる。観光を振興策に活用していくのであれば、2020年から2030年なのかわからないが、目標年次の段階での観光入込客をどれくらい、半定住型の観光をこれくらい、総人泊数はということを考えておく必要がある。
- ・嘉手納が返還されると海兵隊員と家族を合わせて1.7万人×365人泊分の三食分が減るので、その分GDPも小さくなる。それをカバーするだけの観光客を入れるということを考えないといけない。観光は消費単価が高いので、1.7万人×365人÷5くらいの人泊数を確保しないと現在の消費は落ちるので、これくらいは最低確保しないとイケない数というようなことになる。これは観光の話しだけだが、こういうことをロジックとして持っておく必要がある。

中本 : 先ほど、今年度広域的な構想づくりを始めるといってお話があり、その先に(仮称)跡地利用推進法の立法化があったが、恐らくそれが今後の舵取りの上位計画のような位置づけとなるという理解でいいか。

古波蔵 : 跡地利用の新たな法律をつくるということであり、今までに出てきた課題を解決するめてである。

中本 : 広域的な調整等も行う制度となるのか。

古波蔵 : 広域構想と政策協議会は直接関係ない。ただ、法律の中に広域的な考えを入れ込む可能性はある。

中本 : 沖縄21世紀ビジョンが今年3月に公表されたが、6月に閣議設定された成長戦略との繋がりはあるのか。また、立法を目指している新しい法律との関係はどうか。

古波蔵 : 21世紀ビジョンと新しい法律はリンクしている。一番大きいのが、跡地は国として責任を持つべきと言う基本的考え方に立っており、それが新しい法律にも反映されるべ

きであり、返還されても土地が使えない期間は給付金が必要だとか、跡地利用に関しては国が主体的に関わるべきだというようなこと等であり、21世紀ビジョンにも書き込まれているようなこともある。

- ・成長戦略と跡地利用はリンクさせたという認識は持っていないが、新たな沖縄振興法（ポスト沖振法）があり、交通の問題、観光の問題等は国の戦略とタイアップして検討していると思う。

中本 : 成長戦略は跡地利用計画とリンクする部分が多い、あるいはリンクさせた方がいい部分もある。また、経団連の民間活力を国の成長エンジンとして活用していくという提案も跡地利用において学ぶべき点も多い。国は呼び水となるインフラを整備し、金融、財政的な支援を行いながら民間を呼び込むと書かれている。

- ・このような視点からは、沖縄振興開発計画の延長上に成長戦略を繋げ、その中心が跡地利用であるという形で進めてはどうか。

高嶺 : 宜野湾市の都市マスタープランでは、西海岸はコンベンションを中心とした観光中心の地域としているが、跡地利用計画ができると都市マスタープランの都市構造の変革を求められ、それがベースとなる。

- ・既存のコンベンションセンターは、返還時には建替えが必要となるが、宜野湾市にコンベンションシティという冠を付けるのであれば、コンベンションインダストリアル、コンベンション関連産業を充実するなど、新しい改変を都市マスタープランに打ち出していくことになるのではないか。
- ・また、宜野湾らしさを保ちながら新しい拠点を作るという大儀を作って、都市マスタープランそのものを変えることが必要となってくるのではないか。

比嘉 : 先ほどの議論とも関連するが、市の都市計画は、単独都市計画の時代から広域都市計画の時代へと昭和50年に那覇広域都市計画へと移行しているが、いつの時代でも広域的な調整が必要だという考え方が基本である。

- ・普天間は平成2年あたりから青年フォーラムや基地のないまちづくりの議論を進めてきたが、それが市単独で作った基本構想等に繋がっている。これについても昭和45年の基地接收から宜野湾市の事情があり、現在の基地の中心部には、役場もあれば尋常小学校もあり、宜野湾市の中心だった。これを踏まえて、都市計画的立場からは、都市的土地利用の実現、宜野湾市の都市計画の再編のために普天間跡地を利用すべきということである。
- ・一方、市の真ん中に市域の1/4の面積の基地があり、その周辺は国道、県道が走り、過密な市街地が形成され、基地は騒音等の生活被害だけではなく、まちづくりにも大きな支障を及ぼしている。
- ・市は、この2点を改善すべく基地返還、跡地利用に取り組んでいる。
- ・平成16年に基地跡地を含めた都市計画マスタープランを策定した。目標の数値化が必要といったご意見もあったが、条件整理が難しいということもあるため、それに至っていないが、都市計画では既存のコンベンションと連携しながらプラスになるような跡地利用を考えている。コンベンションに近い部分についてはリンクできるコンベンション系の土地利用を考えている。
- ・最終的に基本構想ができた場合には、都市計画の見直しは必要と考えている。市の都市計画マスタープランにないものとして、鉄軌道等がありますが、本格的鉄軌道が誘致され、今後のまちづくりに活用できれば画期的と考えている。

- ・また、大山タイモ畑などの自然の話については跡地利用の基本方針の中では既存の石灰岩の水脈保全やその下流側のタイモ畑の保全活用が位置づけられている。現在の都市計画は大山は区画整理区域になっており、現在、事業化に向け取り組んでいるが環境を保全しながら時代にあつたまちづくりに向けて修正しながら進める方向である。

白石：コンベンションセンターは国際競争力がゼロである。国際競争力を持たせるならば2万人クラスを収容するものが必要であり、アクセスするための道路、トランスポーションが必要だ。シンガポールや香港がお客さんを呼ぶよりもいい条件で戦っていないといけない。部分最適ばかり追いかけ、作った方がいいがお客さんが来ないというのは最も不幸だ。鉄軌道を含めて高速安定的な道路網がある中で、駐車場もきちっと作った大型のコンベンションを中核としたコンベンションシティという考え方を真ん中に据えるべきである。現状ではコンベンションセンターとして売っていくには恥ずかしい位のサイズであり、交通条件であり、間違いなく勝てない。勝つための哲学を持つべきだ。

- ・現在の交通事情を前提に考えると、コンベンション是那覇に近い方がいい。キンザー、豊崎、那覇軍港がベターであり、宜野湾ではない。お客さんが来て早くコンベンションを行うことができ、アフターコンベンションもあり、宮古、石垣などにも時間がかからない。お客さんの立場からすると那覇周辺になる。
- ・それに負けないようなものを作ろうとするなら、それなりのサイズと道路等の交通をワンセットで考えた上で、コンベンションで生きていくというメッセージを打ち出すのではないか。現在の施設規模では10年後には国際コンベンションセンターとして使えないと思う。
- ・普天間周辺には沖縄国際大学、琉球大学、国際的な小中学校がでるなど、学の中心的部分是那覇にはないので、そういうところを活かしてどう強みを発揮するかを考えないといけない。

山口：沖縄はもちろん、全国的にもそうだと思うが、観光を科学する大学、専門学校がない。専門学校はあるが科学していない。沖縄は色々なところで色々な人々がチャレンジして成功した、あるいは失敗した事例の蓄積がある。これは内地の観光とは異なるだろう。内地には温泉や伝統的な観光があるが、沖縄はそうではなく、亜熱帯においてみんながチャレンジしている観光である。ただ、そのチャレンジを科学することが欠けている。

- ・振興拠点ゾーンの中に研究施設、リゾートが入っている。これらが公園とどうリンクするかという話しだと思うが、そのときのキーワードは観光を科学するということではないかと思う。
- ・基地の経済から観光に向かっていこう、沖縄が抛って立つところは観光だと言っても、プロパーの人材がない。ただ、この人材育成のソフトの部分はいつでも始めることができる。
- ・そういう準備を、従来の観光学科のレベルではなく、総合的に土地利用等も含めて、観光をキーワードにしてピンからキリまでつなげることができるようなものとして取り組み、それが振興拠点ゾーンにある。また、沖縄の国営公園のテーマは観光になるかもしれないが、それがリンクするような形ではないか。
- ・それにより、アジア諸国の観光面で連携することもできるだろうし、これまでの実績を積み重ね、後ろを振り返りつつ次のステップを踏むためのプレーンを蓄積する場所になると考える。キンザー、瑞慶覧等もあるが、普天間は従来の土地利用の検討の延長上で見れば、こういった視点があるのではないか。

堤：琉球大学は観光産業科学部がある。ただ、観光は交通と宿泊機能がないと困るので、専門である環境建設工学科も入れるよう申し出たが、文系だけで固めてしまった経緯がある。そういった点で問題があるかもしれない。

白石：日本の観光、特に沖縄もそうだが、相手は日本人だけだと考えている。日本の人口が減るとというのが何年か前で、マーケットが小さくなることに気づき始めたのがリーマンショック後で、羽田の国際化を控えてえらいこっちゃとなっているのが今だ。

- ・ただ、観光と言っている割には戦略がないのが現実だ。今後のご指摘のようにアジアも含めた世界を相手に沖縄の観光の仕組みを作らなければいけない中で、もう少し集積された観光人材の育成が必要だと思う。
- ・近隣の学校のアライアンスをしながら取り組むことがあるが、学校には若い人が必ずいて、定住人口を増やす要因となる。これを強みとして活かすことができる。
- ・大学も日本的な大学の作り方ではなく、ハワイ大学やコーネル大学のように学校が業になっており、環境や観光が柱となり、大学の建物や街なみが観光地となるようなぐらいにするように、将来観光でやっているということであれば、取り組みの真ん中にそういうものをしっかり置いておく必要があるのではないか。
- ・コーネル大学なんかは学校の中にホテルやレストランもある。

堤：ハワイ大学の中には観光バスが走り、ショッピングセンターもある。

白石：民間と共同しながらやっていくというのはある。

- ・近いというのは優位だし、遠いのは不利だ。近い、遠いということはしっかり見ないといけない。
- ・大学院大学についても近いと言えるが、学がどう繋がり、沖縄の付加価値を高めていくかが重要となる。

堤：琉球大学の近くで沖縄国際大学もあり、少し遠いが大学院大学からも来ることができ、そこから那覇に行くとなると普天間はその中間にあり、これは一つのポイントとなる。コンベンション、学術関係で中心的な機能を持たせる点はあり得るとは思っている。

白石：それで集積を持たせるのであれば、他の4地区ではやらないでという調整は必要だ。

堤：それと同時に交通機能を如何に持たせるかが最大のポイントとなる。

田嶋：冒頭に返還時期がわからず、政策環境も変化する中で、どういう立場で計画を作るかという話があったが、軍用跡地はそれが当たり前と考えた方がいい。沖縄返還時に関東地方で2000haを超える米軍基地が返還された。その際、地元では国有地の争奪戦が起こった。それらは国有地だから事情は異なるが、当時計画を所管していた国有財産審議会は、1/3は国が使い、1/3は地元自治体の要望に応じて計画し、残る1/3は留保地とする3分割案を提示した。

- ・スケジュールが見えない等の状況はあるが、フレームを決めていくと考えやすくなるのではないか。基地が社会的に与えてきた影響は大きいので、その跡地利用は社会的に貢献する利用がまず一つあるだろう。それが公共公益的利用で道路、公園等で1/3くらい。地主の皆さんは既に生活は確立されているとすると、自家利用する形はそれほどないと考えると1/3くらい。残る1/3をどうするかというのが今検討されている話しに成るのだろう。
- ・白石さんや小松先生が指摘されているような外部経済を導入する話もあるので、将来どういうことが起こるのかを考えながら1/3の開発計画を変更しながら進めていくのがいいのではないか。

- ・ 恩納村では外資が入っているが、外資がやってきて話しをするための折衝能力を沖縄県にないと話しが始まらない。なんとなく中国が大きくなったから中国だというのではなく、英語を話せる人材、中国語を話せる人材が開発部門にいて、折衝しながら1/3の地域にどう機能を導入していくのか。そういうことをやりながら跡地利用を考えていくことが現実的ではないか。
- ・ こういうことはかなり重要で、訓練しておかないと返還されたときにバタバタしてしまう。読谷村で跡地利用の手伝いをしてきたが、読谷村の7割が米軍基地だったのが今5割まで減っている。都合1,500haくらい帰ってきているが、それをまとめて転換利用しようとしてもできない。普通の土地に戻る分も相当ある。ただ、重要なのはどういう機能を導入するかによって地域の姿が変わってくるので、その機能導入は非常に慎重に選択する必要がある。それが外資となると、初めて経験することだ。新しい時代に入り、この計画をつくりながら、実務環境を同時に作っていかないとリアリティのある話しにならない。

堤： 普天間の土地の良さを十分引き出す計画に成っていない気がする。地質の問題などはあると思うが、あれだけ広く平らな土地はあまりない。台地上にあり、海岸からは離れているが、普天間基地のレストランから西海岸を見るととてもきれいだ。そういうメリットをどこまで出せるかをもっと考えないといけない。例えば、田島さんが指摘した1/3議論で余裕を持たせるとしたらそれを公園にしてもいいかもしれないが、西海岸側にとるのか、中央にとるのか、東側にとるのかだけでも大きな違いがある。地形的な問題を真剣に議論したほうがいいと考えている。平らじゃないとできないこと、活かせることが大事だ。

中本： 田島さんの話しは納得できる。ガラパゴスに行ったときに聞いたが、強い動物が生き延びたのではなく、変化に対応できる動物が生き延びたという。がちがちに固めるのではなく、ある程度アローアンスを見ながらというのは納得できる。

荒田： 現在、県の跡地利用に向けた施策は、基盤整備のお金をどうするか、あるいは誰がやるかということに力点が置かれている。実はそちらの方は重くなく、むしろ土地利用の需要をどう創るかの方が大変なんじゃないかと思う。これは目的を持てば持つほど、それに向けて地主さんの協力を得ながら、それこそ1年、5年で考えざるを得ない方、あるいは風土100年と言っている方と、間をどうつないでやっていくか。

白石： 10%くらいの方が跡地に住みたいというアンケート結果を聞いたが、例えば10%の人達が住めるようにして、一方で共同利用したいという人もいる筈だから、その人達に対して事業提案をしていかないと、勝手に工区分けしても却ってまとまるのに時間がかかってしまうのだろう。

荒田： 100年の計を5年10年のリアリティを持たせながら説明しないとイケない。それが面倒になると誰か持って行ってくれと言う話しになってしまう。先ほどのフレキシブルに何でもできる土地という話しがあったが、それは国有地なのかということになる。

白石： 最終的にはそういう話しはあるかもしれないが、まずは機能を提案しないと真っ白なままではどうにもならない。

荒田： 地主さんには最長でも10年程度の話しをできないと説得できない。大丈夫ですよといっても信じてもらえないので、その間を取り持つクッションが居る。あるいは組織か体制かということだ。

白石： 交通体系の10年計画を作られているようだが、これには鉄軌道の話は載っていたの

か。

古波蔵：昨年度、交通政策課が可能性調査を行い、空港から普天間を經由して沖縄市、途中から分岐して北谷を通過して嘉手納に行く 2 ルートについて検討した。今年度も継続して調査を実施している。普天間に関係する話としては、駅ができた場合、どういう街が好ましいのか。需要面も含めて検討する。

- ・ もう一つ、国が今年度から鉄軌道関係の調査を実施し、ルートを検討する。
- ・ 昨年度までは検討に反映していなかったもので、今年度はその辺りの条件が大きく変わる。

白石：那覇の人が普天間に行くのか、普天間に住んで那覇に行くのかによって、鉄軌道の役割が変わってくる。住宅集積地を作るのか、目的地を作って那覇等から人を呼び込む場所にするかで絵が変わってくる。

- ・ この条件は今までなかったもので、今年 1 年の議論はこれを入れ込んでどうメンテナンスするという進め方がよろしいのではないか。

荒田：トピックスとしては、鉄軌道系の調査を国が引き取ったというのは注目に値する。

小松：都市拠点ゾーンについては、鉄軌道をどう活用するかがかなり重要だ。

- ・ 数値目標、広域での機能分担の話は難しそうだと言うことが分かったので、ある意味早く言った者勝ちということではないか。
- ・ 普天間という街のことを考えて、ここにふさわしいものを先に打ち出す。沖縄には必ず必要だということを実先に言うと言う戦略で当面はいいのではないか。
- ・ 鉄軌道は大きく環境を変化させる。ベッドタウンのための通勤手段ではなく、那覇空港から目的を持って行くものを作ろうとした場合に、何を作るのか。先ほども出たが、大学も一つだろう。
- ・ 外国の大学は塀がなく講堂がど真ん中にある。研究大学院大学がバイオ系なので、観光系等があるのでは。今、観光を勉強するのにハワイに行っている。
- ・ せっかくだからいいチャンスなので、拠点の中身を議論したほうがいい。

白石：今から 10 年、20 年なので、国際ビジネスの人材を沖縄の中で育てるのは無理なので、ハコモノに鐘をかけずに 100 人くらいアメリカ、中国、ロシア、インド、ブラジルなどに輸出し、10 年くらいして 50 人くらい帰ってくると、シードとなって使えるくらいの長期ビジョンで人間づくりをしないと、ここに何とかセンターを作って偉い人を呼んで育てようとしてもうまくいかない。普天間とは直接関係ないかもしれないが長期的にこういうことをやる必要があるのではないか。残る 50 人が帰ってこなくても地元でネットワークになってくればいい。学校を作るのではなく、経験を積む機会を作る。

中本：宮古島市が環境モデル都市に選ばれ、事業を始めているが、今後実績に基づいて環境モデル都市から環境未来都市が選抜される。その中で、環境省から沖縄の気候環境にあった住宅がどうあるべきかというプロジェクトを行っている。これは我々が提案していたものだが、新しい技術ではなく今ある環境、気候を活かしながら住宅の 50% のエネルギーをセーブしようというものであり、本も作っている（沖縄の設計ガイドライン）。これは理論上のものであり、これを実践しようということで、宮古島に鉄筋コンクリートの建物を 2 棟、木造を 7 棟づくり、1 年間かけて環境測定を行う予定である。

- ・ このプロジェクトに関して、JICA を通して研修を行うことになり、浦添にアジア諸国の行政マンが来ているが、彼らが各国気象データを持ってきてくれた。これは大変な力であり、それが沖縄に集まりつつある。それを使ってガイドラインを検証することが

でき、また、20億の人口を抱えるアジア地域で沖縄の技術が注目を浴びてきている。

- ・1年経てばリアリティのある報告ができると思う。

荒田：沖縄の新しい建築様式ができるといい。

白石：エネルギー問題に対応したモデルが輸出の対象になってくる。

中本：中国の広州の華南工科大学では中国の南方建築について研究しているが、そこがラプコールを送ってきている。うかうかしているとだめだろう。

白石：いかに沖縄ブランドを構築して輸出していくか、如何に早くやるかということだ。

山口：区画整理で新しいまちを作るときは全体が繋がっていくが、元々は集落の範囲があった。

昨年、土地に魂をという話があったが、区画整理では土地に魂を持ってない。土地に魂を持ち、一定の集落単位を持つと、地域コミュニティを醸成しやすくなるのではないか。

- ・都市の構造の話とともに、集落の将来の構造を持てることが重要だろう。
- ・土地利用計画の中に帯状緑地があるが、これは集落環境緑地のような位置づけにもなると思う。一定の規模があると安心して土地に根付くこともできるだろう。そういうことをもう少し考えた方がいい。
- ・今から新しいまちを作っていく時に、どんな空間単位とするかという中で緑や環境が重要となる。広い範囲の話もあるが、コミュニティとして意識できる空間単位を構造的につくる。フラットに造成された土地をそのまま使うということもある。

白石：そもそも誰が住むかということもある。日本人なのか、外国人なのか、地元の方はもちろんだが、その方々がアウトサイダーをどう思うかもある。那覇新都心はよく分からないままに人が住んできているので、コミュニティがないままできている。交通の便が良くて商業地としては活性化しているが、新興住宅地特有のコミュニティになっている。街の形状もそうだが、募集の仕方によってそういうことが起こってくる。

- ・そもそもどんな人が住むのか、人の像を考えるべき。ひとくせ村構想と言っていたのだが、ひとくせある人じゃないと入れないという冗談めかした言い方だが、合う人を入れるということを代表した言い方だが、そういう部分を一つにしないと、コミュニティ面で問題になるのではないかということだ。
- ・そういうことまで考えておかないと、パースではきれいな街なみでも、実際は経済効率がいい四角い建物が立ち並ぶだけの街になってしまうことにもなる。

古波蔵：魂を入れるという話では、宜野湾市は文化財調査を結構やっていて、川や林も見つかっている。魂を入れるというのは歴史を表現するということであり、その中で地形のアンジュレーションを再現するということが部分的に出てくるのだろうと思う。

荒田：昔の集落が3つあるが、それが何とかならないかと思う。並松街道を昔のルートで再現し、それにすぎるだけでも随分と違った空間になるのではないか。ただ、それ以外は農地なので、その魂をどう読み取るかという問題はあがあるが。

- ・先ほどのひとくせあるグループを結成してもらって、自分たちで責任を持ってやってくれという単位かもしれない。

高嶺：土地利用面では、そこに住んでいる人たちは緑地とかに換地できなくなる。新都心では緑地を残したのは、そこに換地しようとする拒否するから自然と残った。

呉屋：魂とまでは言わないが、9割が60歳以上なので土地への思い入れは強いと思う。住宅を作るときに、その人達の思いがこもった住宅地ができるのだろう。それ以外はオーダーメイドの住宅地ができるが、オーダーメイドすることによって、土地への思い入れが強くなり、自分たちが作った街と感ずるのではないか。企業誘致でも、協働で誘致した

と考えればそこが繁盛すればその土地への思い入れも高まるだろう。

- ・公園に関しては、先日の勉強会で地権者は1/5か1/4を無償提供して大規模公園を整備しようという意見があった。これはその人の思い入れかもしれないが、有償であっても土地を提供して公園が実現すれば地権者は思い入れを持つし、今後活用したいという思いは出てくるだろう。それが魂を入れるということになつながらいい。
- ・大規模公園に関しては若手の会でも話題になった。地権者も勉強していく中で、土地が使えるのか、使い切れないのであればそのままという地権者もいるかもしれない。一方、共同利用の話をするとういう使い方もあるという地権者もいる。ただ、何とかして使いたい、でも使い切れないんじゃないかと不安を持っている人もいるので、制度さえ充実すれば大規模公園用地として売る方も少なくないかもしれない。相続で思い入れが少ない方が増えれば売る方も増えるだろう。
- ・数値的な表現はできないという話しはあったが、100ha 以上とうたっているのであれば、図面には100ha、50ha とか書かない方がいいかもしれない。200ha くらい希望者が出てくるかもしれない。
- ・金太郎飴の街ではなく、恒久的な大規模公園を整備することで、それにちなんだ振興拠点、交通拠点がポイントだと思う。この振興拠点に何を持ってくるのか、それに地権者がどう賛同してくれるのかだろう。

高嶺：新都心では一律で買い取った。小祿も同じ。これは税金の控除があったため、地権者がそれを原資に何かやれるということもあった。

呉屋：新都心の場合是一律ということで、少なく土地を持っている人の不満が出たという話しを聞いている。普天間では早い時期に公園の用地確保のために制度的なことも含めて早めに取り組んでおいた方がいい。

荒田：心配していることは鉄軌道の話しが来たときにそういう話しがひっくり返る可能性がある。鉄軌道自体はいいことだが、また違ったエネルギーが出てくることになる。いずれにしる苦労しないと公園はできないだろう。

呉屋：若手の会の議論では、振興拠点というのであれば空港からの距離を短くしないとイケない。例えば、10分、20分でアクセスできることを目指すということは盛り込めないかと思っていた。

- ・空港からの距離ということ考えると浦添や那覇に負けてしまうので、交通拠点というのは重要だろう。

山口：空港から直結する高速道路がすぐ近くまで来ている。中城PAにスマートICを設ければすぐ近くになる。

荒田：そうなる筈だ。高速道路からは一本分岐させるが、どこからというのは決まっていない。

山口：そうすると空港から30分でアクセスできる。

- ・もう一つ、中部縦貫道路によって普天間が2分されることになる。掘り割り構造であれば平面的に繋がっていても本当にそうしてもいいのかということはある。もし鉄軌道がくるのであれば、高速からのアクセスと併せてこの問題を解消できないのか。

古波蔵：この件については道路管理者側も動いていない。どうい構造になるかは見えていない。

前の基本方針では掘り割り形式だったが、跡地利用の観点からは沿道利用できず、用地もとられるのでいいことはない。

- ・中部縦貫道路は国道330号のバイパス機能であり、どうしても必要だ。ただ、整備する時に通過交通は表に見えないような方法がとれるのではないのか。例えば、トンネルに

するとか。跡地利用の観点から道路に関して提案することはできる。

小松：比較案の絵がやけにリアルだが、大きな違いは公園の配置のようだ。なぜ、こういうことになっているのか、いきさつがよく見えない。この案について、懇談会で議論する必要があるのか。あるのならば一回説明してほしい。

荒田：基本的にこの懇談会では、こういうことを決めることを求めているものではない。ただ、今後県民の皆さんに意見を聞く上で案を作成していく必要がある。来年 1 月頃にはその叩きについてご意見を聞く機会を設けたい。

以上

■ 有識者懇談会（第2回）

1) 日時、場所

- 開催日時：平成23年2月16日 10:00～12:00
- 開催場所：沖縄県庁7階 第4会議室

2) 懇談会委員（敬称略）

- ・東京都市大学都市生活学部都市生活学科 教授 : 小松史郎
- ・北中城村 政策調整官 : 高嶺晃
- ・(株)地域計画研究所 代表取締役 : 田島利夫
- ・琉球大学工学部環境建設工学科 教授 : 堤純一郎
- ・NPO 沖縄県建築設計サポートセンター 理事長 : 中本清
- ・(有) MUI 景画 : 山口洋子
- ・普天間飛行場の跡地を考える若手の会 副会長 : 呉屋力

3) 事務局出席者（敬称略）

- ・沖縄県 企画部企画調整課 : 古波蔵健、下地正之、高江洲強
- ・宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 : 比嘉秀夫、新垣勉、照屋盛充
- ・(財)都市みらい推進機構 : 稲岡英昭
- ・(株)日本都市総合研究所 : 荒田厚、茂手木功
- ・玉野総合コンサルタント(株) : 堀田保将、久松隆司
- ・(株)群計画 : 大門達也

4) 意見交換の要旨（敬称略）

堤 : 比較案の評価は、荒田さんの視点からしたものか。

荒田 : 事務局として集約、分散のそれぞれの良さを比較した。

堤 : 県としてというところか。

古波蔵 : 県、市としてだ。

田島 : 4案がいいとは思いますが、都市拠点ゾーンを分散して考えてもいいのではないかと。具体的には東西に伸ばして配置するイメージだ。都市拠点といっても、全てが同じではないので、西側は振興拠点ゾーンに近く、東側は居住に近く、それぞれの拠点としてのあり方があるだろう。そして真ん中にはセントラルパークがあるという。

- ・3つの土地利用を基本としているが、緑の配置が重要だということがわかる。出発点を緑の配置にしてもいいのではないかと。それによって緑の位置づけを高めることもできる。

荒田 : 資料では、土地利用、交通、緑の順番で示しているが、検討プロセスとしては、交通、緑地、土地利用の順番で考えている。

- ・土地利用配置の自由度を高めてもいいというのは指摘の通りだと考える。
- ・なお、都市拠点ゾーンについては、公共交通機関の駅の配置との兼ね合いから南北方向に長く配置している。

古波蔵 : センターに公園を配置、都市拠点ゾーンを東西方向に配置するという考えはあると思

う。

- ・公共交通については交通政策課が検討中だが、那覇からの到達時間短縮の観点から現在は鉄道をイメージしており、そのため駅間が 2km 程度となっている。ただし、これも決まったものではない。

小松：都市拠点としてどの程度の規模が必要か、人口フレームをどの程度みているかという資料がない、不思議な議論だ。

- ・配置パターンとして見ても今までの議論が反映されていない。
- ・振興拠点ゾーンをオーシャンビューの西側に配置する考えはいい。この場所は沖縄の一等地である。
- ・最近の産業用地は敷地内を緑豊かにしている。そうすると、その隣に大規模公園を配置する必要があるかということもある。
- ・観光の人たちが来ることを考えると、従来の都市公園のように商売をしてはだめだというのはなく、言わばテーマパークのようにどんどん商売してもいいのではないか。
- ・今後の議論に向けては、敷地のボリューム感を抑えておくべきだ。最近のインダストリアルパークは、かなり大規模な土地が必要とされる。
- ・目標に設定した「しごと」と「暮らし」にも影響することであり、土地利用のフレームがないと困る。
- ・中身の議論はこれからだが、その中で面積も変化するだろう。振興拠点ゾーンはもっと必要だとか、居住ゾーンは、高級住宅地はこの程度といったように。
- ・現段階では比較案の評価は難しい。

荒田：中間とりまとめ（案）は、2 方向に発信しないといけない。1 つ目は地権者に向けて、2 つ目は、県内外、国外に対する呼びかけだ。2 つ目はまだできていないので、まずはキックオフの段階としてイメージを作っているということだ。あくまでも呼びかけの材料である。

古波蔵：20 ページにあるように、平成 23、24 年度の広域ビジョン調査において、嘉手納以南跡地の役割の中で土地利用を考えていく。

小松：広域の中で考えていくという説明は理解しやすい。本来中南部都市圏の中で考えるべきことだ。

荒田：土地利用については、3つの他に地権者が自由に使いたいという言わば「白い」土地利用がある。

堤：基地の中に亀甲墓があるのが見える。遺跡や宗教的な儀式が行われた場所も点在している。それらを全てつぶして土地利用するのも難しい。跡地利用する際に動かせないものも白い土地利用であり、土地利用としてフィックスしておいた方がいいのではないか。

荒田：そういったものは全域にわたってある。墓以外にも地面の下には色々あるだろう。空けてみないと分からない状況で、大きな仮説として配置している。

高嶺：沖縄の空港は北東・南西軸に沿っている。沖縄の風は南東と北西の軸を流れている。そういう観点からは、案 1 と 3 は北東・南西軸上に、案 2 と 4 は南東・北西軸上に緑の軸ができています。空港の跡地利用、居住環境を考慮すると、北東・南西軸に拘らず、案 4 の南東・北西軸に緑が配置されるのがいい。

- ・跡地計画と既成市街地との関係だが、将来的に一緒に進め、都市の構造を改変しなければいけないが、その中で重要な部分を指摘できるのであれば、既成市街地に踏み込んだものがあるといい。

中本：滑走路の向きは風のこととも考慮している筈だろう。緑も単なる芝生ではないのだから、風との関係についても考慮して計画して欲しい。

・これら4つの案は資料中の「目標」をめざして作ったということか。

荒田：計画について、姿形に対して意見を言いたいという人たちもいるので、そのためにも絵を作った。

・ただ、跡地利用については姿よりもソフトをどうするかといったことの方が重要かもしれない。

中本：跡地利用の構想については、構想も含まれるのではないか。

山口：地域の視点で見ると、通過交通中心の中部縦貫道路はデメリットの方が大きいのではないか。公共交通のこと踏まえると身近な道路ネットワーク等の方が必要な気がする。また、こんな大きい道路を計画する時代でもないのではないか。

・瑞慶覧の方は段丘になっているが、そこをどけどけといった感じでこの道路が通過するということになってしまう。平面では分からないが、そういったことも考慮した方がいい。

堤：上物が建つ時期が20年後とすると、その頃にこんな規格の道路が必要かどうか。ここまで道路計画をフィックスしてもいかということがある。また、人口がピークを過ぎた頃に、このハシゴ状のネットワークが維持できるかどうかも課題だ。

古波蔵：歪んだ都市構造を是正するために中部縦貫道路は必要だ。ただし、通過交通による影響は抑えないといけない。今後は構造も含めた議論になるだろう。

堤：都市拠点を真ん中に配置すると既成市街地へのダメージが大きいのではないか。

古波蔵：その点については、別調査でも検討している。なお、商業施設を入れると決まっている訳ではない。

堤：公共交通機関は、既成市街地再生の目的を持つと思うが、センターの駅の位置は既成市街地と離れてしまっている。

古波蔵：できるだけ既成市街地側（東より）に配置している。

荒田：公共交通機関が道路の交通機能を代替できるものではない。環境面の効果もそれほど大きくないのではないか。公共交通機関の最大のメリットは、交通機能の代替性や環境面の効果ではなく、新しいライフスタイルを提案することにある。

田島：読谷に住んでいると、那覇空港までの自動車の所要時間が読めない。普天間まで車で来て、そこから公共交通機関を利用できる。さらにはチェックインもできるようになるといい。

堤：ただ、公共交通機関がこのルートになると、既成市街地の再活性化への寄与は難しいのではないか。

山口：既成市街地の再活性化という点では、例えば、普天間高校は既成市街地の中で手狭になっていると思うが、それを跡地内に移転すれば、既成市街地の高校跡地を利用して再開発なりを進めることができる。こういう観点から商店街などとの関係も一体で考えるべきだろう。

荒田：その点については仕込みがしてある。例えば、国道の拡幅、並松街道の整備等と併せて普天間高校周辺などの既成市街地にも手を付けていくのだろう。

比嘉：平成15、16年に策定した都市計画マスタープラン、宜野湾リフレッシュプランでも既成市街地との関係等については課題として認識し、整理している。本日の資料ではその辺りの課題が見えづらくなっているが、市としては強く認識しており、跡地利用にあた

っては周辺市街地との一体整備に取り組んでいく。

荒田：周辺市街地との関係については、資料の 8 ページに示している。元々の発想としては、跡地に種地を用意し、周辺の課題解決に役立てるという所にあったが、種地の確保、周辺市街地整備のタイミングが合わないなど、難しい課題もあることから、8 ページに示した 3 点を示している。

呉屋：前回、地域産業ゾーンが示されていたが、今回はないのはなぜか。

荒田：土地利用ゾーニングを整理して都市拠点ゾーンと合併した。

呉屋：①一体的に整備については議論している。既成市街地の密集住宅を一旦跡地に持って行き、地権者の換地を周辺市街地に充ててもいいのではないかという議論もあった。

②地元合意に関連して、将来をイメージできる人は大規模公園の整備についても理解を示すが、イメージできない人は判断できない。もう一步踏み込んで大規模公園の整備効果等を示すことができればイメージしやすくなり、大枠での合意形成が得られやすくなるのではないか。

③100ha の大規模公園について、せっかく大規模なんだからまとめて配置した方がいいという意見がある一方で、分散して配置することにより、地域全体にその整備効果を行き渡らせる方がいいという意見もある。これらを踏まえ、公園としてひとまとまりで確保すべき規模はまとめて配置し、その他は分散配置してもいいのではという折衷的な配置でもいいのではという話しもしている。

荒田：グリーンフロントに配置する住宅は、価値が高まると言いたいところだが、国営公園として整備するという根拠としては弱い。

小松：最近国土交通省もそんなことは言わない。都市公園も税金だけでは維持できない時代を迎えており、公園の中で商売することも考えていいのではないか。

- ・公園の周囲に柵を巡らせているのは日本くらいである。公園でお金を取るのではなく、公園の中にある施設で入場料を取るなどし、それを公園全体の維持管理に充てることは考えられる。そうなれば柵を設けなくてもいい。

田島：長期的な整備、利用に向けて特別な進め方があることに触れておいた方がいい。スケジュールが分からない、大規模な土地が出現し供給過多になる点が軍用跡地の悩ましいところで、一般の計画論と異なる手法、考え方が必要だ。

- ・大規模公園、道路等の公共用地で全体の 3 割程度、地権者の直接利用が 3 割いかないとと思うが、残りの 1/3 の 160ha 程度を振興用地とするのが整理しやすいのではないか。ギンバルの医療系施設、恩納村の外資のリゾート、研究開発の大学院大学が同程度のプロジェクトとしてイメージしやすい。

- ・横浜のみなとみらい 21 は面積 150ha 強、後背人口 2000 万人程度でタワー型のオフィス、マンションが数十棟建っているが、30 年近く経ってもまだ空地がある。沖縄県は人口が 1/10 程度でニーズは 1 棟としても既に那覇新都心にマンションが建っている。

- ・30 年、40 年かかる事業だと需要が見通せないため、先々土地利用が分かることを前提としたプログラムがあってもいい。みなとみらい 21 にはまちづくり協定があるが、十何回と協定の内容を変えている。例えば、1/3 の振興用地ではまちづくり協定を結び、当面具体化しないという場所があってもいいのではないか。

- ・こういう作り方の話しが載っているといい。

小松：来年度あたりに、時間軸の中でのフレームと段階整備案について検討できるといい。中南部全体のビジョンが先ということかもしれないが、今後の取り組みの話しの中で、こ

の段階でこういうことを議論するとしておいた方がいいのではないか。

荒田：国、県、市町村の役割分担では、県、市が計画を作ったら国が事業について検討するという枠組みだったが、本当は事業のことを考えない計画はあり得ない。ただ、そういう整理がされていたため、なかなか事業について触れられない。そういう面もあり、事業の枠組みもなしに変則的に検討を進めてきた経緯がある。

古波蔵：段階整備案について、リザーブ用地を確保するというで検討を進めてきたが、いつ返還されるかわからない中でリザーブ用地を取れるのかということもある。

- ・また、実は事業者自体が決まっていない。普天間公園については、国がやってくれないと進まないとは言ってあるが、今は段階整備案を検討する状況にはないということだ。無論、将来的には検討する必要がある。

小松：那覇新都心では1/3は議論するのをやめようということだった。時代がどう動くかわからないので、全部に色を付けるのはナンセンスだという議論があった。結果的には色を付けたが。

古波蔵：関東の3分割論は、国有地だからできること、普天間は全て民有地なので同じことが言えない。

荒田：全地権者が地権者会社を設立して一つの主体となって利益を分かち合うシステムを作れば段階的というのもできるだろう。ただ、全員が一緒になって会社を興すというのをどうやれるのかということがある。

呉屋：地権者懇談会でも、地主会の会長さんから今後は若手会が中心になってと言われる。不安になってくると、活用方法をどう考えたらいいかわからない。若手の会がマネジメントし、この指とまれということをやれば結構盛り上がるかもしれないという話もある。

- ・ただ、時期、タイミングが見えてこないのが課題だ。

荒田：効果的にやらなければいけないが、今はそのタイミングではない。

呉屋：先ほどの協定についても当てはまるかなとも思うが、横浜は大規模地権者がいたが、跡地は多数の地権者がいることが大きな課題であり、一つの地権者会社を作らないという話にも繋がってくると思う。

堤：証券化できると楽なんだが。

高嶺：普天間は中南部都市圏のまちづくりの牽引役を担うことになる。既成市街地は更新時期を迎えて変化していく一方で、関連する色々な計画も進められていくわけだが、その中で計画が変化するということもある。今後の取り組みでは、跡地の検討と並行して、それに合わせた既成市街地の更新についても検討する。都市計画マスタープランをより具体化したようなものかもしれないが、跡地と既成市街地を並行して検討して将来の姿を示せるようにしておけば、時々達成状況を分かり易く示すことができるのではないか。

呉屋：若手会でも周辺市街地をウォーキングしたが、跡地の外について我々が口を出すのは憚られる部分がある。

- ・市街地について市民の目線で考えるNBミーティングというのがあるが、その方達が周辺市街地からの視点、我々が中からの視点で連携がとれば良いと思う。それぞれ希望するものがあるのだが、上手く連携できればお互いの良い効果が出せるだろう。

比嘉：周辺市街地の課題抽出と方向性までは出したが、跡地側については中間とりまとめまでは都市マスのレベルを超えない。より具体的な方策ということで都市交通の分野を検討しているが、上位計画に関する状況が変化する中で、それも組み立てづらい。ただ、道路計画については検討に入りやすいということもあり、そこから検討に入っている。

- ・市レベルの都市交通と周辺市街地の地域整備プログラムを後追いでやってはいけないというのが都市マスの趣旨であり、今後検討していく。
- ・普天間本体のまちづくりの広報、周知に取り組んでいるが、身近な形で捉えられていない。周辺市街地の地権者に出すためには跡地側の中間とりまとめという形が少し示されないと難しい。
- ・周辺市街地の課題については、市全体の再編の視点から、現状をどれだけ改善できるかということになる。
- ・中間とりまとめをどれくらい PR し、発信できるかというところもある。発信しながら周辺に入っていくことになる。
- ・計画を作って、国が事業主体を決めるという大枠の中でどの位置から入るといことになるが、これも難しく、課題となる。
- ・地域整備プログラムみたいなものを考えていく必要がある。ただ、そうは考えているものの、どういう時期にスタートするかということも難しい。
- ・上位計画についても整理した上で、いい状況で中間とりまとめを出すために 1, 2 年伸びるというのはいいが、できるだけ早めに中間とりまとめを出し、イメージできないという状況を克服する必要がある。

小松：中間とりまとめはこの方向性でいいが、高規格道路がどうしても地域分断要素にしか見えない。地下か地上かはどうでも良くて、分断要素に成らないように配慮するということを断りを入れておいた方がいい。

山口：普高嶺さんが関わっている泡瀬では、どんな魅力づけをしているのか。

高嶺：今後 10 年、20 年は変化が早い時期だと思う。

- ・泡瀬は既に返還され、給付金があるので、その間に跡地利用としての魅力を高めることを考えないといけない。
- ・普天間との関係について言えば、想定外と考えられる。

荒田：時代が違うということかもしれない。普天間は次の世代であり、それまでに泡瀬は頑張るといことではないか。

堤：4つの案に加えるとすれば、セントラルパーク構想を入れて欲しい。

荒田：次年度以降、そういう案も検討すると思う。

- ・案を示したのは、まずは議論を巻き起こすことが目的だ。何も無い状態では、今日みたいなご意見もいただけないので大成功ということだ。
- ・1 案作ってそれを叩き台にしてもいいが、ややもすると固定化してしまうので、複数案並べて議論の幅を広げる意図を持っている。

高嶺：普天間の跡地利用が 20 年とかかかる前に、これを呼び水に既成市街地のポテンシャルを引き出すような提案をすることが現実的な話しとしてあるだろう。

以上

資料－４ ワーキング部会の記録

■ ワーキング部会（第１回）

1) 日時・場所

- と き : 平成22年9月21日(火) 13:30 ~ 17:30
- と ころ : 沖縄県庁7階第4会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、下地主幹、高江洲主任技師
 - 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、新垣係長、照屋主任主事
 - (財)都市みらい推進機構 稲岡
 - 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、水野、久松
 - (株)日本都市総合研究所 荒田、茂手木、村山
 - (株)群計画 大門
- (オブザーバー参加)
- 沖縄県 企画部交通政策課交通企画班 砂川副参事、真栄里主幹、前武當主任技師

3) 議題

- 平成22年度実施計画(案)について

4) 配布資料

- 実施計画書(案)
- 平成22年度調査の実施にあたっての留意点
(参考資料として)鉄軌道系交通施設の検討に関する資料

5) 意見交換内容

① 中間取りまとめ(案)

- ・『地権者の土地活用意向と「素案」の整合性の検討』とあるが、整合性という言葉の使い方が適切ではない。「素案」の検証は地権者意向のみに基づくものではなく、県全体の中での考え方を踏まえる必要があるのではないか。
- ・跡地の土地利用は、土地の起伏を考慮した検討が必要だろう。
- ・多くの地権者が個別利用を希望すれば中間とりまとめ(案)の実現は困難になる。計画案を実現させるためには共同利用に対する合意形成が重要となり、計画検討と並行して合意形成に取り組む必要がある。
- ・平成23年度中の跡地利用計画(案)作成が困難としている点は理解できるが、不確定要因については条件付きを前提としてでも検討成果を案としてまとめたい。
- ・本調査において、まちづくりの観点から道路、公共交通、公園の縦断を提案して欲しい。こ

の3つを議論してからでないかと先の話が進まないだろう。

② 道路

- ・幹線道路は高規格を考えているが、国・県ともに動いていない状況にある。今年度調査で、跡地利用サイドからの考え方を示したい。
- ・中南部都市圏に鉄道を導入すれば、中部縦貫道路の必要性は低下するのではないか。

③ 公共交通

- ・公共交通に関するレビューを行うことにより、交通計画も変わることがあり得るのか。
⇒ 跡地利用サイドから公共交通サイドにリクエストする可能性はある。
⇒ 公共交通については跡地利用サイドと公共交通サイドがキャッチボールし、地形条件等を考慮した計画を検討していきたい。
- ・平成 22～23 年度に内閣府が公共交通に関する検討を行う。今年度は実現可能性、複数ルート案等について検討する予定である。

④ 公園

- ・(仮) 普天間公園の実現可能性は、国によるものとしている。早い段階で県としての絵を描いて、国に示していきたい。
- ・(仮) 普天間公園を約 100ha とすると、跡地の約 20%を占める。その他の公共減歩等と併せると半分以上が減歩となる可能性があることを説明しないといけない。
- ・公園は国に対して費用負担を要望していく。
- ・基地内の貴重な自然緑地については別途調査で今年度検討することを考えている。また斜面緑地も跡地と一体的に捉え、保全の方向で検討したい。
- ・緑地の保全は大きなテーマとして本調査でも検討してほしい。

⑤ その他

- ・国に対して、申し出換地等に関する法改正の要望は必要か。
⇒ 区画整理法本体ではなく関連法でもいいが、可能となるように要望すべきだろう。
- ・県民フォーラムの実施計画を作成する。基調講演は池田先生にお願いし、パネルディスカッションでは「21 世紀ビジョン」、「交通」、「公園」、「若手の会」等の専門家・担当者等にお願いする方向としたい。

以上

■ ワーキング部会（第2回）

1) 日時・場所

- と き : 平成22年10月18日(月) 16:15 ~ 18:00
- と ころ : 沖縄県庁 13階第1会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、下地主幹、高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、新垣係長、照屋主任主事
- (財)都市みらい推進機構 稲岡、秋葉
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、中垣、水野、久松
- (株)日本都市総合研究所 荒田、茂手木
- (株)群計画 大門

3) 議題

- 平成22年度県民フォーラムについて
- 意見交換会について

4) 配布資料

- 県民フォーラム開催要領(案)、同プログラム(案)、同企画(案)、スケジュール(案)
- 意見交換会の企画(案)

5) 意見交換内容

① 平成22年度県民フォーラム

- ・今年度の県民フォーラムは、基調講演とパネルディスカッションのスタイルとする。
- ・基調講演は、財団法人都市経済研究所の上妻氏にお願いする。
- ・コーディネーターは、琉球大学教授の池田氏にお願いする。
- ・パネリストについて、若手の会から一名お願いしたい。まずは副会長の呉屋氏に話しをしてみる。
- ・振興拠点関係について話してもらえる方として、カヌチャベイリゾートの白石氏にお願いする。
- ・緑関係を中心にお話ししてもらえる方として、MUI景画の山口氏にお願いする。
- ・日程について、知事選との関係はあまり気にしなくても良い。旧正月を外し、2月上旬の平日で調整する。
- ・テーマはこの内容でいいが、もう少し刺激のある言葉が入るといい。これについては継続して考える。

② 意見交換会

- ・一部のテーマ(③④⑤⑧⑩⑫)については11月前半で日程を調整する。

- ・若手の会では中間とりまとめ素案に対する意見を2月頃にまとめるので、それを待って実施する。
- ・テーマ⑨については、人選を県にお願いしたい。
- ・産業振興に関しては必要ないか。
- ・県企画調整課、産業課から人選する。

③ その他

- ・有識者懇談会で指摘されたコンベンションセンターの件（現施設は小規模なため、国際コンベンションには不十分であり大規模な施設が必要等の意見）は初めて聞いた。
- ・元々アネックスと言う話しは出ていた。規模が小さいため跡地にもということであり、現施設をなくすという話しではない。
- ・11月に別調査で地元懇談会を実施する。本業務の実施計画書ではそれに対する支援を行うとあったが、何か予定しているのか。
- ・必要に応じてということであり、現段階は予定していない。
- ・道路計画については、過年度検討の成果を踏まえつつ、まちづくりの観点から線形、構造等について検討してほしい。次回あたりにでもある程度のもを見せて欲しい。
- ・この点については、鉄軌道についても考慮して検討してほしい。

以上

■ ワーキング部会（第3回）

1) 日時・場所

- と き : 平成22年12月7日(火) 13:15 ~ 15:00
- と ころ : 沖縄県庁4階第2会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、下地主幹、高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、新垣係長、照屋主任主事
- (財)都市みらい推進機構 稲岡
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、水野
- (株)日本都市総合研究所 荒田、村山
- (株)群計画 大門

3) 議題

- 県民フォーラムについて
- 意見交換会について
- 土地利用計画等について

4) 配布資料

- 県民フォーラム関連（チラシ案、アンケート案、スケジュール等）
- 土地利用計画等について（ゾーニング方針、幹線道路）

5) 意見交換内容

① 県民フォーラムについて

- ・ アンケート票は設問3の自由意見欄をもう少し広げた方がよい。昨年は結構書き込んでくれた方も多かった。
- ・ 外崎氏の基調講演では、緑地や公園の話が中心になるだろう。一方、パネルディスカッションの進め方の「意見の例」を見ると対象範囲が広い。限られた時間での議論になるので、パネルディスカッションも環境などの話に絞った方がよいのではないか。
⇒ 今回は中間とりまとめ（案）に関連したフォーラムなので、議論が広い範囲にわたる必要があるのではないかと考えている。
- ⇒ これまでのフォーラムは普天間を中心とした話だったが、ビジョンも公表されたので、今回は跡地から中南部都市圏を考えると一つのテーマと考えていた。
- ・ 今回の県民フォーラムは、例えば「緑地の保全の重要性」など環境面に絞った方がよいのではないか。西側の斜面緑地保全の重要性などについて、県民フォーラムを通して県民の共通認識としていくことが重要と考える。
- ・ 現在、県で最も重視していることは、新たな制度をどのようにつくるかである。この制度構築に向けて、県民フォーラムでは「緑地の保全や緑化の重要性」等について意見を集約しておきたい。現在、広域緑地計画に取り組もうとしているので、「緑」の話をするのに適した時

期である。

⇒ 平成 18 年度（H19.2）に環境・公園をテーマとして県民フォーラムを開催した経緯がある。この時は鳥取環境大学の吉村教授が基調講演し、国営沖縄記念公園事務所長の後藤氏、MUI 景画の山口氏らによりパネルディスカッションを行った。

- ・外崎氏の基調講演の内容と調整してフォーラムのテーマ等を決めたら良いのではないか。また、パネルディスカッションの進め方（8～9 頁）に記載されている「意見の例」は書きすぎではないか。中南部都市圏では、水と緑のネットワークや公共交通、主要幹線道路の話題が中心になるだろう。

② 意見交換会について

- ・県議会は 2 月中旬頃からはじまる予定である。また、市では 1/24 から会計検査があるので、その準備のため 1/20～21 の意見交換会は難しい。
- ・「②主要幹線道路についての県との意見交換」は、双方で検討を深めた後に実施したい。

③ 幹線道路について

（中部縦貫道路）

- ・跡地の真ん中を通る中部縦貫道路が堀割式では、まちに分断感がでる。さらに堀割式にするとフェンスがでる。フェンスによる分断感、風景の悪さは計り知れないものがあるため、まちの真ん中だけは分断しない開放的な空間をつくりたい。
- ・また、堀割により中心部に法面がでるのは土地利用的にも勿体ない。
- ・中部縦貫道路は、基本トンネルで既成市街地に近い部分を堀割構造にすることが現実的な対応かもしれない。

（宜野湾横断道路／東西幹線道路 3）

- ・宜野湾横断道路の東側は平面でも良いが、国道 330 号との交差部は立体構造にする必要があるのではないか。そうしないと高速道路とつなぐ意味がなくなる。

（今後の予定）

- ・幹線道路の“構造（立体）”については今年度は比較案の評価でよいが、その“ルート（平面）”については「都市マス案」か「検討案」かを決める必要がある。
 - ・現在、広域構想の委員会を行っており、そこで広域インフラをまず決める必要があるとされた。このため今年中に普天間の道路、公園などの考え方を整理してほしい。
- ⇒ 広域構想調査と本調査の関係が分からない面がある。

以上

■ ワーキング部会（第4回）

1) 日時・場所

- とき：平成23年1月21日（金） 14:00 ～ 16:00
- ところ：沖縄県庁7階第1会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 新垣係長、照屋主任主事
- （財）都市みらい推進機構 稲岡、秋場
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、水野
- （株）日本都市総合研究所 荒田、村山
- （株）群計画 大門

3) 議題

- 県民フォーラムについて
- 審議委員会の開催について
- 有識者懇談会について
- 残りの意見交換会について
- 全体計画の中間とりまとめ（案）の素案について

4) 配布資料

- 実施要領（第7回県民フォーラム）
- 県民フォーラムまでのスケジュール
- H22 意見交換会、有識者懇談会、審議委員会の日程調整表
- 「全体計画」の中間とりまとめ（案）の素案

5) 意見交換内容

① 県民フォーラムについて

- ・当日の配付資料（講師のお考え、アンケート票）は、日本都市で400部印刷してコンベンションセンターに送付する。
- ・会場内の配席については県・市でご確認頂きたい。

② 審議委員会の開催について

- ・審議委員会の一昨年までの位置づけは、行動計画の工程管理の場であり、物事を決める場ではなかった。今回もこのような位置づけで良いか。
⇒ 今回までは行動計画の工程管理という位置づけで良いのではないか。また、来年度は有識者懇談会を拡大した「委員会」を開催する必要があると考えている。
- ・審議委員会は県市の主催となるため、会議での資料説明は、これまで県市でおこなっている。共同企業体は配付資料等の準備を行う。
- ・審議委員会の日程及び委員メンバーを早急に決める必要がある。

- ・ 審議委員会の開催日時は、県と市の都合が合わないので、市で議会の日程を再確認した上で連絡する（市としては2/25か2/28が良い）。
- ③ 有識者懇談会について
- ・ 有識者懇談会は、2/15の午後か、2/16の午前に開催する。
どちらが良いかは、都市みらいから懇談会メンバーに確認した上で決めたい。
- ④ 残りの意見交換会について
- ・ 県の振興ビジョン等（県・企画調整課）にかかる意見交換は、現段階で実施しても普天間に
関する情報は出てこないだろう。
 - ・ 意見交換会はこれまで実施したもので終了としたい。
- ⑤ 全体計画の中間とりまとめ（案）の素案について
- ・ 平成23年度以降の取組みから『跡地利用構想の策定』という言葉在省き、平成22～23年
度の2年間の取組は「中間とりまとめ」としたい。
 - ・ 『（仮称）宜野湾新都心』というネーミングは、より広域的なイメージができる方がよいので
はないか。
⇒ 次回ワーキング（2/8の午前）で、再度、素案に対する意見を頂き、議論したい。
また、ネーミングについては、次回ワーキングまでに関係者全員が考えてくることとした
い。
- ⑥ 今後の予定
- | | |
|--------------------------|-------------|
| 2/7（月） | ： 県民フォーラム |
| 2/8（火）の午前 | ： 第5回WG |
| 2/15（火）の午後 or 2/16（水）の午前 | ： 第2回有識者懇談会 |

以上

■ ワーキング部会（第5回）

1) 日時・場所

- と き : 平成23年2月8日(火) 10:00 ~ 12:00
- と ころ : 沖縄県庁7階第4会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、新垣係長、照屋主任主事
- (財)都市みらい推進機構 稲岡、秋場
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、水野
- (株)日本都市総合研究所 荒田、茂手木
- (株)群計画 大門

3) 議題

- 審議委員会の開催について

4) 配布資料

- 審議委員会事前送付資料印刷スケジュール
- 審議委員会資料の構成
- 「全体計画」の中間とりまとめ(案)の素案
- 第4回WG議事録

5) 意見交換内容

① スケジュールの確認

- ・ 前は、内閣府の本庁、総合事務局に事前説明に行った。
- ・ 県内の委員には、明日明後日で廻る予定だ。

② 審議委員会の位置づけについて

- ・ 中間とりまとめ委員会と審議委員会は別の位置づけであり、来年度は審議委員会を開催しない可能性はある。
- ・ 任期を来年度末にするか、3月から2年間にするかは検討しておく。

③ 審議委員会の資料準備について

- ・ 前回からの経緯と現在の検討状況を説明する。
- ・ 経緯については県が作成し、必要地に応じてJVが補足する。
- ・ 審議委員会資料はパワーポイントで作成し、委員には事前送付する。
 - ・ 広域構想についても資料3として説明を行う。
 - ・ その他にも説明すべき事柄、資料については、県で検討する。

④ 審議委員会の出席者について

- ・スペースの問題があるので、県、市の出席者はもう少し絞る。
- ・また、関係者は椅子だけとする。

⑤ 審議委員会の資料内容について

- ・平成 23 年度には中間とりまとめ委員会の開催を表記する。
- ・中間とりまとめは 23, 24 年度に行うと表記する。
- ・関連調査を表記する。
- ・4 案の比較評価表を作成する。
- ・図面の公園と保全緑地は異なる色で表記する。
- ・緑地と文化財との関係について触れておく。
- ・道路計画は跡地サイドからの提案ということで出す。
- ・大山 7 号線を図面に表記する。
- ・宜野湾横断道路と沖縄自動車道、西海岸道路とのタッチについては図上で「●」で表記しておく。

⑥ その他

- ・有識者懇談会では、本日の資料を材料に議論してもらおう。

⑦ 今後の予定

- 2/15 (火) 15 時 30 分 : 第 6 回WG
- 2/16 (水) 10 時 : 第 2 回有識者懇談会
- 3/7 (月) 13 時 : 審議委員会

以上

■ ワーキング部会（第6回）

1) 日時・場所

- と き : 平成23年2月15日(火) 15:30 ~ 16:30
- と ころ : 沖縄県庁7階第4会議室

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、下地主幹、高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、照屋主任主事
- (財)都市みらい推進機構 稲岡
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、久松
- (株)日本都市総合研究所 荒田、茂手木
- (株)群計画 大門

3) 議題

- 審議委員会の資料の確認について

4) 配布資料

- 資料1: 跡地利用計画策定に向けた取り組みの進捗状況
- 資料2: 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた関連調査の概要
- 資料3: 全体計画中間とりまとめ(案)
- 土地利用ゾーン別のまちづくりのイメージ

5) 意見交換内容

① 配布資料について

- ・ 昨年度配布した「沖縄県の基本構想の策定スケジュール等について」は、今回配布しない。そのため、資料は1から3とする。

② 当日の準備について

- ・ 役割分担は県の方で確認いただき、それを踏まえてJVで対応する。
- ・ 審議委員会では配付資料とプロジェクターを併用する。

③ 資料1, 2について

- ・ 資料1の「合意形成の実現に向けた取り組み」、「跡地利用期日源に向けた取り組み」についても進められているため、進捗状況を表記する。
- ・ 県の推進費調査では、項目ごとに番号を振って国に要望しているため、進捗状況については、それとの整合に気をつける。
- ・ 資料2の一番下に21世紀ビジョンを付け加える。
- ・ 資料2の本調査の箇所は、「6分野」を「8分野」に修正する。

④ 資料3について

- ・資料の体裁はA4 横使いの上下めくりとする。
- ・土地利用配置指針、緑地空間配置パターンの比較案の項目には図面を付ける。
- ・基本構想の中は、「交通⇒土地利用⇒公園」の順番とし、各項目を「文章＋図面」の構成とする。

⑤ その他の資料について

- ・参考資料として、鉄道、広域構想、新たな法制度の要望等について提示する。これは県で用意する。

⑥ 今後の予定

- | | |
|------------|------------|
| 2/16（水）10時 | ：第2回有識者懇談会 |
| 3/7（月）13時 | ：審議委員会 |

以上

■ ワーキング部会（第7回）

1) 日時・場所

- とき : 平成23年3月7日(月) 15:30 ~ 16:00
- ところ : カルチャーリゾートフェストーン

2) 出席者（敬称略）

- 沖縄県 企画部企画調整課 古波蔵跡地対策監、高江洲主任技師
- 宜野湾市 基地政策部基地跡地対策課 比嘉次長、新垣係長、照屋主任主事
- (財)都市みらい推進機構 佐々木、稲岡、秋場
- 玉野総合コンサルタント(株) 堀田、水野
- (株)日本都市総合研究所 荒田、村山
- (株)群計画 大門

3) 議題

- 報告書の配布先・部数について
- 報告書の取りまとめ方針について

4) 配布資料

- 報告書の配布箇所
- 報告書(案)

5) 意見交換内容

① 報告書の配布先・部数について

- ・ 報告書等の部数は以下の通りであり、配布先は審議委員会を開催した平成20年度を参考に時点修正する。
 - 報告書本編 : 190部(県市各95部)
 - 報告書概要編 : 280部(県市各140部)
 - パンフレット : 4,500部(県市各2,250部)

② 報告書の取りまとめ方針について

- ・ 本日は本編をお持ちした。概要編は本編の4章のみを抜き出すことで作成する。1~4章は仕様書の1)~4)の項目にあわせており、仕様書の「5)県民・市民・地権者等との意見交換」は、報告書の「付属資料」が該当する。
- ・ I章は「関連調査の成果のレビュー」が唐突にでてくるので、例えば、「交通分野に関しては公共交通と幹線道路の最新の調査内容について整理している。」などの説明書きを記載したほうが良いだろう。
- ・ 交通分野の関連調査の成果のレビューについては、各報告書の内容が公表可能かを確認する必要がある。
- ・ 本日の審議委員会の意見については、報告書に議事録として取りまとめ、次年度以降の検討課題となる。

以上

資料－5 県民フォーラムの記録

1. フォーラムの案内（チラシ）

◆ 第7回県民フォーラムのお知らせ ◆

跡地からはじめる中南部都市圏のまちづくり（緑の回廊）

— 普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けて —

開催日時・場所

- 平成23年2月7日（月）
- 14：00～16：40 （13：00 開場）
- 沖縄コンベンションセンター 会議場 A1

（※お車でご来場の際は、会場及び会場周辺の駐車場をご利用いただけます。）

入場は、無料です。

◆ 県民フォーラムのプログラム ◆

13:00	開場
14:00	主催者挨拶
14:10	基調講演 テーマ「地球温暖化対策と生物多様性保全は新しいまちづくりの世界標準」 講師 外崎 公知（財団法人 都市緑化技術開発機構 研究第一部長）
15:00	（休憩）
15:10	パネルディスカッション コーディネーター 池田 孝之（琉球大学工学部環境建設工学科教授） パネリスト 上妻 毅（財団法人都市経済研究所常務理事） 外崎 公知（財団法人都市緑化技術開発機構 研究第一部長） 寺田 麗子（NPO・沖縄玉水ネットワーク代表） 呉屋 力（普天間飛行場の跡地を考える若手の会副会長）
16:25	フロアーとの意見交換
16:40	終了

■主	催 沖縄県・宜野湾市
■後	援 内閣府沖縄総合事務局、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県商工会連合会、 (財)沖縄観光コンベンションビューロー、(社)沖縄県建築士会、沖縄県技術士会、 宜野湾市商工会、宜野湾市軍用地等地主会
■企	画 共同企業体／(財)都市みらい推進機構、玉野総合コンサルタント(株)沖縄事務所、 (株)日本都市総合研究所、(株)群計画
■お問い合わせ	沖縄県企画部企画調整課(担当 下地、高江洲 電話 098-866-2108) 宜野湾市基地政策部基地跡地対策課(担当 新垣、照屋 電話 098-893-4401)

◆ 県民フォーラムの開催について ◆

沖縄県及び宜野湾市は、平成18年2月に策定された「普天間飛行場跡地利用基本方針」をもとに、平成19年5月に「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画」を策定し、平成19年度から、この「行動計画」にもとづき、主要な計画分野に係る横断的な検討を開始し、跡地利用計画の策定に向けた具体的な取組を進めているところです。

普天間飛行場の跡地利用については、毎年1回、様々なテーマを設けて県民フォーラムを開催し、県民意向の醸成や計画への反映に努めてきました。

7回目にあたる今回は、普天間飛行場の跡地利用計画の策定に向けて、「跡地利用から始める中南部都市圏のまちづくり(緑の回廊)」をテーマに、県民・市民が共に考える「場」として県民フォーラムを開催します。

◆ 講師及びパネリストのプロフィール ◆

● 外崎 公知 氏 (基調講演講師・パネリスト)

(財)都市緑化技術開発機構 研究第一部長、北海道大学大学院修士課程修了後、1980年建設省(現国土交通省)に入省、熊本県土木部景観整備室長、沖縄総合事務局公園調整官、内閣府政策統括官(沖縄政策担当)付跡地利用企画官、大津市助役などを経て現在に至る。技術士(総合技術監理部門、建設部門)

● 池田 孝之 氏 (コーディネーター)

琉球大学工学部環境建設工学科教授、東京都立大学大学院工学研究科(博士課程)都市計画学専攻修了、1980年工学博士、日本都市計画学会賞及びトヨタ財団全日本環境研究コンクール銀賞等受賞、沖縄振興審議会総合部会専門委員及び普天間飛行場跡地利用計画策定審議委員会委員等公職多数

● 上妻 毅 氏 (パネリスト)

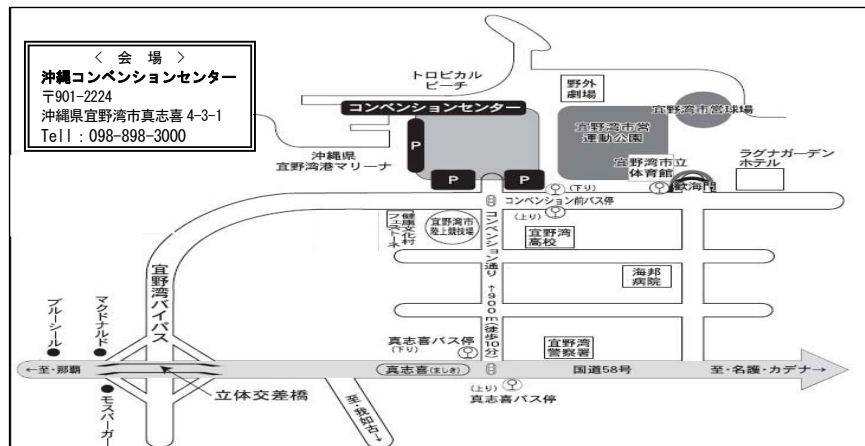
(財)都市経済研究所常務理事、学習院大学法学部卒業、(社)日本職業スキー教師協会公認スキー学校勤務を経て、1991年(株)国際開発ジャーナル入社、1993年(財)都市経済研究所入所、企画開発部長等を経て現在に至る。内閣府沖縄振興審議会総合部会専門委員、沖縄県振興審議会総合部会専門委員。

● 寺田 麗子 氏 (パネリスト)

沖縄玉水ネットワーク代表、環境ジャーナリスト、沖縄県生まれ。1974年沖縄テレビ入社。報道局キャスター室副部長を経て2003年退職。沖縄県振興審議会委員、「沖縄の川を考える懇話会」委員、「カシノ問題を考える女たちの会」共同代表等

● 呉屋 カ 氏 (パネリスト)

普天間飛行場の跡地を考える若手の会副会長、宜野湾市在住、普天間飛行場跡地利用計画方針策定推進調査有識者懇談会委員



2. 配付資料

1) 講師のお考え

● 池田 孝之 氏

普天間跡利用をめぐる広域計画と周辺市街地との連携について

1. 沖縄県都市計画区域マスタープラン

- ① 駐留軍用地跡地における計画的な都市的土地利用
 - ・ 高次都市機能の導入
 - ・ 幹線道路の整備
 - ・ 広域公園の整備 等
- ② 南北交通軸の強化
- ③ 密集市街地の改善
 - ・ 駐留軍用地跡地利用と一体的な整備
 - ・ 大学と連携したまちづくり

2. 宜野湾市都市マスタープラン

- ① 基幹都市軸
- ② (仮) 普天間公園
- ③ ねたての交流拠点
- ④ 都市核(商業、サービス)
- ⑤ 都市的土地利用
- ⑥ 中部縦貫道路
- ⑦ 宜野湾の横断道路
- ⑧ 緑道(並松街道)
- ⑨ 保全緑地ゾーン

3. 普天間跡地利用計画に係る周辺市街地整備

- 課題：① 防災上危険な市街地
- ② 狭隘道路・行き止まり道路の地区
 - ③ 公園不足の地区

- 連携：① 基幹道路の整備(中南部軸線、東西線)
- ② 公園、緑地のネットワーク(緑道の整備)
 - ③ 密集市街地区の解消と住宅の受け皿
 - ④ 都市機能の再配置と代替地(新住宅市街地の形成)

4. 普天間地区の考え方

- ① 外部資本任せではない活用の地域主体計画
- ② 広域的な視点からの役割(セントラルパークとしての大規模国立公園)
- ③ 中南部100万都市圏の動脈と副都心地区の形成
- ④ 付加価値の高い商業・業務・研修施設と住宅
- ⑤ いびつな市街地構造の再生との連携
- ⑥ 跡地利用計画は住民(地権者)・市民が主体

● 上妻 毅 氏

いま改めて、「普天間基地」の跡地利用・まちづくりの意味を考える

基本認識

- ◇ 沖縄戦とその後の基地建設、県土の重要部分を軍用地に占有された中での急速な市街化の進行等により、生活環境、交通インフラ等さまざまな面で‘歪んだ都市構造’を余儀なくされた。
- ◇ かかる沖縄の歴史的経緯と現状に鑑み、「再生」の視点から、基地の跡地利用と基地周辺環境改善を推進し、‘人と自然が調和する良質な生活環境’を回復する必要がある。
- ◇ 基地の存在による県土／都市構造の歪み・問題点（例）
 - ①基地周辺的生活環境への著しい悪影響，②基地の存在のため公共施設が計画的・適正に配置できない，③県土における多くの開発適地が奪われた，④沖縄戦により消失した緑地の復旧が十分に進まない，⑤交通・物流拠点と市街地が十分連結しない，⑥交流施設等の連携やネットワークに支障をきたしている，⑦計画性のない基地返還が混乱を及ぼす…etc.
- ◇ 基地跡利用にあたっての現実的課題（例）
 - ①権利者及び地元負担の軽減（ex.減歩率，市町村財政負担），②事業期間の問題（…過去、返還から事業完了までの平均は14年超。那覇新都心は20年。返還前の基地立ち入りを含め、返還後すみやかに事業に入れる条件整備が必要。），③基盤施設等の整備，④事業実施体制，⑤諸課題をふまえた基地跡利用のための新たな仕組み・制度（…特別立法か。目下、沖縄県は跡利用推進のための新法を政府に要望中。）
- ◇ 大規模な基地返還～跡利用の歴史的意義と重み
半世紀を越える接収・占用からの歴史的返還であること。在沖米軍基地は沖縄のためでなく、もっぱら米国の軍事戦略と日本本土の安全保障に寄与してきたこと。国益に供されてきた県土の再生・再編に国は責務を負うべきであること。基地の跡地利用は県民が望む新しい県土づくり、地域社会、経済発展のために推進されるべきであること。

「普天間」への視点および私見

- ◇ 跡地利用計画の主体・中心となるべきは地権者と市民。以下、その上での視点および私見。
 - ◇ 「再生」の場／シンボルとしての普天間：環境の再生，都市の再生，平和の再生
あるべき県土の姿をふまえた環境・景観の復元 ※必要な環境浄化や原状復帰等は国の責務
緑の再生，歴史的空間の再生： ex. 緑と集落の復元（並松街道，旧集落等）
あるべき県土構造をふまえた都市機能の再編
望ましい広域都市圏（中南部都市圏）形成の新たな拠点，主要幹線道路，軌道系公共交通の導入等
平和を希求する‘沖縄の心’を具現化するシンボルの形成
軍用地の平和転用，「平和の礎」等に込められた祈りを昇華させる場，「海」を主題とする海洋博記念公園と「歴史」を主題とする首里城に続く新たな国営公園の整備等
 - ◇ 「共生」の場／シンボルとしての普天間：自然との共生，多様な文化の共生
環境共生／循環型社会形成のモデルとなる先進的まちづくり
（交通，水循環，ゼロエミッション，再生可能エネルギー，住宅）
東アジア共同体等、新時代の平和構築をコンセプトとする国際共同プロジェクトの実施等
 - ◇ 時間とともに価値が高まるまちづくり
 - ・沖縄固有の「風景」「景観」は、生活者にとってのみならず、観光にとっても不可欠の資源であり資産。
 - ・「これから先20年、50年、さらに100年先も食べて（続けて）いける観光をどう創れるか」、「そのための沖縄の資産をどう創っていくか」。基地の返還～跡地利用を契機とする‘新しいまちづくり’と連動し、‘沖縄観光の資産形成’を強力に進めていくべき。その意味でも、普天間跡地の利用は極めて重要。
 - ・視点：「時間とともに価値が劣化する街（まち）か？ 時間とともに価値が向上する街（まち）か？」
例えば、ヨーロッパの街並みや都市の景観、風景が大きな観光資源になっていることを考えても、時間とともに価値が向上していくような「価値創造型のまちづくり」が望まれるのではないか。
 - ・「景観10年、風景100年、風土1000年」
- 長期的視点に立った価値創造／資産創出型のまちづくりを望む。「普天間」はその試金石。

● 寺田 麗子 氏

嘉数高台から見下ろす普天間飛行場は広大な琉球石灰岩の台地だ。本来は地下に豊かな水がめを湛え、農地や集落の暮らしを支える命の水を豊かに供給していただろう。今も大山地区のターウム畑に恵みの水を送り出してはいるが、アスファルトに覆われた地下水脈の現状と雨水排水の調査が必要だと考える。

私が所属する沖縄玉水ネットワークでは、ここ数年で頻発するようになった鉄砲水による河川事故を重視しており、雨水の扱い方を地域毎に工夫する必要があると感じている。普天間台地は最上流域としての役割を持っており、雨水を地下深く浸透させてゆっくりと下流へ送り出す機能を戻して欲しいと思う。

また、水資源としての雨水利用も重要だ。沖縄本島において今後ダム建設は難しいと思われる事から、可能な限り地域で自立した水利用のシステムを作り出すことが求められている。温暖化による気候変動で環境への取り組みが急がれている中、普天間だからこそ出来る沖縄の循環型モデルを提示してはどうだろう。新しい街づくりの中で、住宅をはじめ全ての建物へ「天水タンク」を設置し水源を確保すると共に、緑地帯への地下浸透を促す。それと並行して「合併処理浄化槽」あるいは「コミュニティプラント」等を設置し「下水処理水」も「中水道」資源として再利用する。別の地域でも下水処理水の再利用がおこなわれているが、下水処理水の再利用は出来るだけ現場処理による再生がエネルギーコストの面からも有効と思われるので、地域内循環のモデルとして取り組みば注目されそう。再利用に当たっても幸い普天間跡地には並松街道を柱に豊かな緑地帯が再現されそうなので、散水用の水としても活用できそう。

そして新しい住宅地に公園と昔の沖縄の井戸端会議の中心地でもあった「湧水池」を甦らせるなどすれば、新旧入り交じった住民同士の新たなコミュニティの拠点が期待できる。島の知恵を活かした水の自立と、住民コミュニティが育てば、自然災害時に「足腰の強い街」ができそう。愛知県豊田市の兎ノ口公園などが参考事例としてある。

一方、国道側から見上げる現在の普天間飛行場は斜面緑地が豊かに保たれている。とはいえ点在する湧水池の周辺地域では徐々に宅地化が進行しており、過去の基地返還によって失われてきた緑地の例を考えると、今の内に保全の対策を講じておく必要があると思う。

ところで、住環境として住民の立場から考えると沖縄でも「歩いて暮らせる街」が失われつつあると感じる。高齢化社会が進む中、都市部でも生活圏内からマチャグワーが消えていき、車がないと買い物ができない「買い物難民」が増えている。大型店の進出ばかりに頼るのではなく、地域のコミュニティを活かした支えあいのシステムが求められているのではないだろうか。

● 呉屋 力 氏

○ 普天間飛行場跡地を「要」とした広域的な計画づくり

嘉手納より南に予定される1000haを超える跡地は、歪んだ都市構造の解消や緑化の推進、新たな機能の導入など沖縄県の振興につながる貴重な空間資源であり、広域的な取組に挑戦するまたとないほどのチャンス。

これまでの跡地ではその他返還の目処が立たない中で広域的なビジョンが描けないまま市町村が中心となって跡地単位での計画づくりが進められる傾向にあったが、これからは、県・市町村・関係地権者等が協力し、それぞれの跡地の可能性を探り役割を明示し、特性を生かした計画に取り組む事が望まれる。

普天間の跡地においては、中南部都市圏のほぼ中心にあるという位置的にも規模的にも、さらに、沖振計においても県の振興に大きな影響があるとされていて、中間とりまとめ素案の目標では「新たな発展を先導するまちづくり」とあることから、広域的な振興の「要」として考えられる。

○ (仮) 普天間公園からのまちづくり

普天間跡地では基本方針の都市基盤整備について(仮)普天間公園整備するとあり、そこからの広域的な効果の広がり期待している。中間とりまとめ素案では「集約型」「ネットワーク型」がたたき台として提案されている中で、道路交通網等と同時に跡地全体に大規模公園という「網」を被せ、その網目に必要な分の土地利用計画をはめ込んでいくのはどうか。

- ・活用しづらい場所も自然環境・文化財等の保全などと有効に使用
- ・スプロール化を防ぐ事も可能
- ・地区単位の特性を生かしたコンパクトな利用計画づくり
- ・まち全体を公園と感じられる様々な生活・業務環境が整備

などの効果があり、さらに跡地外へ緑化推進等の波及効果にも期待。

(公園の「網」は碁盤型の様な一定なものでなく、大小・太細さまざまに広げたり縮めたりと各々で自由にイメージしていただきたい)

○ 今後について

- ・今後、具体的な計画づくりには、中間とりまとめまでの関係者地権者の理解が必要。これまで以上に関係地権者の活動推進・連携を強化する事と基本方針をはじめとする現時点までの内容と広域的な魅力づくりの必要性を周知徹底する事。
- ・1000haを超える跡地利用や広域的な基盤整備は、県や市レベルでは財政的にも負担が過重で国の支援が必要不可欠。今後はさらなる国・県・市の連携強化に期待。

2) アンケート調査票

普天間飛行場の跡地利用に関する県民フォーラム アンケート票

設問 1

本日の県民フォーラムをふまえ、沖縄県中南部圏や普天間飛行場跡地のまちづくり（緑のネットワーク構想）のためには、何が重要であると感じになりましたか？当てはまる番号を全てに〇印を付けてください。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 生物多様性社会等の啓発・PR | 4. 国、県、市の取組体制づくり |
| 2. まちづくり構想、計画の策定 | 5. 住民参加のしくみ |
| 3. 建設資金（公共・民間資金の調達） | 6. その他（ |

設問 2

今後も県民フォーラムを継続的に開催していく場合、普天間飛行場の跡地利用に関してどのようなテーマを取り上げたら良いとお考えですか？

当てはまる番号を全てに〇印を付けてください。

- | |
|---|
| 1. 今後の住宅地のあり方について |
| 2. 産業や都市機能のあり方について |
| 3. 沖縄らしい風景づくりについて |
| 4. 周辺市街地との連携について |
| 5. ライフライン
（上下水道・ごみ処理・電力・情報津新施設等）のあり方について |
| 6. 交通機能のあり方について |
| 7. 自然環境や文化財の保全について |
| 8. その他（ |

設問 3

その他「フォーラムの感想」や「あなたのお考え」などを自由にお書き下さい。

回答者についてお答え下さい

住 所	市 町 村	職 業	1. 自営業 2. 会社員 3. 学生 4. 主婦 5. 無職 6. その他	年 齢	1. 10 歳代 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代 5. 50 歳代 6. 60 歳以上	男・女
--------	-------------	--------	---	--------	---	-----

回答頂きましたアンケート票は、受付の『アンケート回収箱』に投函して下さい。

3. 基調講演の概要

1) 基調講演 外崎公知氏

① はじめに「昭和のはじめごろ、宜野湾への旅」

- ・平成13年3月23日の参議院沖縄特別委員会での橋本沖縄担当大臣の答弁である。返還基地跡地は、大変貴重な空間であり、良好な生活環境をいかに確保するか、健全な都市をどう形成するか、産業の振興や自然環境の保全・再生の観点や県土構造の再編をも視野に入れ、幅広い見地からの検討が必要である。この認識は今も同じである。
- ・首里などの戦前の写真を見ると、古都京都にも劣らない文化都市だった。
- ・米軍基地の建設にあたっては、大規模な地形（ランドスケープ）の改変がなく、昭和の初期の地形が残った形で住宅が配置されている。その一方、URが整備した那覇新都心では、従前の地形は一部を除いて殆ど残らず消し去ってしまい、風土や歴史を残したまちづくりがされなかった。
- ・戦前の沖縄には、色々な鉄道会社がそれぞれの地域の実情にあわせて事業を行っていた。したがって、まず鉄軌道ありきではなく、公共交通機関を計画的・効率的に提供するにはどのようにすべきかを議論することが重要である。
- ・戦前の普天間の姿を再現した映像を紹介したい。この映像は10年前に作成したものだが、かなり緻密な情報を集め、若干情報がとれなかった部分は想像して作成している。ベースとなる戦前、戦中の沖縄の地図がなかったため、作業の第一歩は当時の地図を作るところから開始した。当時の米軍が偵察用に撮影した写真を基に当時の地図を作成した。
- ・当時と現在の地形を比較してみると、基地によって集落はなくなったが、緑地や地形はあまり変化していないことがはっきり分かった。また、宜野湾の集落、並松街道等の位置、緑地には当時と同じ緑が残っていること、今は緑地だが当時は畑だったこと、滑走路の下に水路があったことなどが分かる。
- ・この映像は、プロモーションビデオではなく、データベースを作ることが目的だった。
- ・戦前の緑地以外に、洞穴、配所、井戸、湧水、水回りについてのデータもとっている。これらをどう考えるかが跡地利用にとっても重要である。跡地をフラットにして排水溝を作るのではなく、自然の水の流れ、流域というものを考えるとこういう情報は大事になる。

② 世界の潮流・日本の潮流

- ・先進国の人口の伸率は右肩下がりだが、新興国、アフリカ、アジアの国ではまだまだ人口が増加する。世界の大多数の国はこれから都市の時代に入っていくとういことだ。
- ・世界人口に占める都市人口の割合を見ると、約35億人、全人口の約半分が都市に住んでいるが、2050年になると約64億人、全人口の7割が都市に住むことになる。
- ・日本で議論されていることと、世界で議論されていること、世界の都市が向かおうとしているところは異なる。開発途上地域の人口は2050年には倍になる。
- ・日本の人口は減少し、平均年齢は下がる時代である。そういうことを踏まえて、国はどのような施策を打つべきか、あるいはまちづくりを進めるべきか。日本全体のまちづくりに関するメッセージは、このような状況を前提としている。一方、これから青年期を迎える都市は、

今後都市が広がる傾向にある。

③ 地球温暖化対策

- ・地球温暖化がクローズアップされている。CO₂が地球を幕のように覆っているが、この幕の厚さが増しているため温暖化が進んでいる。
- ・一昨年のコペンハーゲンでのCOP15では合意が取れず、国際的な温暖化対策が取れないのではないかという心配もあったが、一方で新しい事実が確認された。一つは温度上昇を2℃以内に抑えること、そして2度以上上昇することが確実なので、上がることを前提にその備えをしようということである。もう一つは、全会一致が原則だが、それは難しいということ、国家間の調整に限界があるため、地方自治体が積極的に関わろうということである。すなわち、国家の時代から都市の時代へと様変わりしているということだ。
- ・これまでの対策では温度上昇を2℃以下に抑えることはできないので、それを踏まえた対策が、地域、まちづくりにおける前提条件ということだ。
- ・昨年のCOP16で、世界銀行が経済規模あたりのCO₂排出量を示した。CO₂をGDPで割った数値では、排出量1位天津、2位北京、3位上海と、中国の都市の排出量が多い。一方、香港、パリ、東京等は経済規模に比して少ない。つまり東京は省CO₂の都市であることを示したデータである。
- ・都道府県別のCO₂排出量は、東京が一番多く、沖縄県は経済規模に比してCO₂排出量が多い。人口規模で割ると、東京都の一人当たり排出量は少なく、海外から評価されている。排出量の内訳を見ると、沖縄県は、産業系、業務系で約40%、自動車交通に頼るため運輸部門が東京、全国よりも多く、自動車部門の排出量をどうするかが今後の課題となる。

④ 生物多様性保全

- ・生物多様性は3つの視点で考えられている。まず、種における遺伝子の多様性であり、同じ種であっても色々な遺伝子があることが大事だということである。例えば、メダカは津軽から沖縄まで分布しているが、生物多様性のバロメーターと言える。地域の環境を色濃く反映した生態を持っており、津軽のメダカは寒さに強く、沖縄のメダカは暑さに強い。同じメダカと言えども、両方の地域のメダカが大事だというのが種における遺伝子の多様性ということだ。
- ・次に、生態系における種の多様性である。一つの森の中にキツネとウサギしかいなければ、ウサギを食べ尽くしてしまえばキツネも絶滅するが、色々な種がいれば、キツネはウサギ以外にも色々な動物を食べられることができ、生態系の安定性を確保できるということになる。そういう観点からは、絶滅危惧種等の特定の種だけでなく、生態系には色々な種がバランス良くいることが大事だ。
- ・次に、地域における生態系の多様性である。地域のことをランドスケープ(景観)といい、土地の姿や生き物との関係を景観と言う。一つの景観の中には色々な生態系があった方がいいということだ。森の生態系、農地の生態系、川の生態系、海岸の生態系等が色々あることであり、ヤンバルクイナがいるから中南部には生物多様性は関係ないということではなく、中南部にも色々な生態系がバランス良くあることが非常に重要ということだ。それぞれの地域の自然をバランス良く守っていくことが大事だ。
- ・昨年10月にあったCOP10では、大きく2つの合意事項があった。一つは、ABSである。途上国が資源を持っていて、先進国がそれをただ取りして使い膨大な利益を得るということ

になっている。そこにルールを設けて、途上国にも一定の便益、先進国に一定のルールを設けるというルールがABSである。

- ・もう一つが、今後 10 年間、世界が生物多様性の保全に向けて何をすべきかということを決めたポスト 2010 年目標ができたということだ。

⑤ 地域文化の多様性を保全

- ・言葉も文化の大きな資源であり、ユネスコが消滅危機にあるとした 2500 言語の中に、日本では5つの言葉（アイヌ、奄美、国頭、与那国、八重山）がある。これも文化の資源として守るべきと示されている。
- ・日本は本当に一つの民族かということを示唆している。ヨーロッパ的に言うと、ドイツ語と英語、スペイン語とフランス語くらい違う言語であり、日本単一民族論ではなく色々な人達か日本語というユニークな言葉を考えたという方がいい。むしろ、昔から開かれた国であり、個性ある文化が北から南までさまざまにあるということだ。
- ・これは、小説琉球処分に出てくる、琉球使節ご一行とアイヌ酋長ご一行だが、この2つのグループを明治政府がどう支配したかということが書かれている。一緒に文明の利器である鉄道を見せたそう。蝦夷と琉球を比較した年表を見ると、蝦夷の方が古くから記録が残っているが、北と南の邦は似たような歴史を持っている。

⑥ 国内外のまちづくりの動向

- ・最近、政府や経団連が、これからのまちづくりについて議論している。環境モデル都市、低炭素都市づくり、気候変動に対応した社会、環境未来都市構想、そして経団連の未来都市プロジェクトであり、これは主に東京から出てくる情報である。その中に富山県のLRTがあり、ベストプラクティスとして表彰される。東京推薦のプロジェクトということである。
- ・LRTを導入している富山市は、中南部都市圏と規模は同じ、人口は半分である。人口規模から行くとLRTは難しくないということだが、導入することが大事なことはない。フライブルグ、リスボン、パリではLRTを入れているが、ブラジルのクリチバ、ソウルではバスを入れている。バス専用レーンで定時制と快適性を確保している。
- ・大事なことは、乗用車を優先した都市づくりから人を尊重するまちづくりが必要ということだ。まず、道路をつくるのが目的ではなく、公共交通政策と土地利用政策をしっかりと連携させて都市の無秩序な発達をコントロールすることが大事だ。
- ・個別の最適解を積み重ねたことが全体の最適解にならないということであり、その例が建築である。一つの建築が賞をもらうようなものであっても、それが無秩序にあった場合、まちづくりにとって良くない。全体の開発を何らかの形でコントロールする必要があるということで、開発権の移転などの方法である。公的な役割を担った土地所有者はインセンティブが働くということであり、今後日本でも研究しないといけない。
- ・スイスの国土政策では、コンパクトなまちづくりをするということだが、昔の街なみを参考に作ろうとしている。故きを温ねて新しきを知ると言うことも大事な視点だ。
- ・ドイツの公営住宅では、人が減ったため、羊羹のように建物を減築して再生している。
- ・シンガポールは、中南部都市圏とほぼ同じ面積で、その中にこれだけの緑を残し、人口は10倍近くある大都市である。40年間、ひとつの政策の下に実現した都市である。
- ・中国がひとつのモデルとしようとしているのが天津のエコシティである。これは、途上国、途上地域にパッケージとして持って行こうという戦略的なまちづくりである。建物を集約し、

その周りに自然を再生するものである。これが、ヨーロッパと異なるアジア、南アメリカのスタンダードにしていこうというモデルだ。

- ・日本でも、民間でサンシティや丸の内中通りで同じようなことをやっているのに、できないことはない。

⑦ 新しいまちづくりの世界標準

- ・最後に、本日の演題ではあるが、これからのまちづくりは、生物多様性と温暖化対策が必要だということである。
- ・COP10では都市の生物多様性指標をつくった。都市と自治体の行動計画を作ることが決議された。これは都市を評価する物差しを作ったというであり、その物差しを使い、各政府は報告して下さいということである。条約に加盟している日本も、各都市の生物多様性がどう豊かかということ申告しないとイケない時代になったということだ。
- ・昨年行われたメキシコの温暖化対策の閣僚級会合では、生物多様性条約とは全く違う条約だが、都市の気候登録簿を作ろうということになった。これは都市の気候変動の緩和等にどんなことを申告するというので、それをしっかり国際会議の場で議論するということだ。
- ・今後は、この2つの枠組みを踏まえない限りは、都市としての国際的な評価は低くなるということだ。

⑧ まとめ

- ・今後、地域主権の時代に入り、政治的意思が非常に重要なものとなり、まちづくりを左右することになる。
- ・歴史や文化等に形作られた地域の個性を大事にすること、ランドスケープという自然の枠組みを踏まえた都市の長期的見通しが大事となる。
- ・絵に描いた餅にならないように、そして計画を実現させる組織、シンクタンクが必要だ。
- ・中南部都市圏、沖縄県がモンスーン地域におけるモデル都市になる可能性がある。今後の皆さんの議論、研究が、後発のアジア、世界の都市のモデルとなる様に進んでいけば素晴らしい。

2) パネルディスカッション

(上妻氏)

- ・基調講演では、普天間の跡地利用、まちづくりは地球温暖化、生物多様性を念頭に置くことが必要だと勉強させてもらった。
- ・その上で、基本認識を一言で言えば、あるべき県土の姿を取り戻すことだと考える。そのために普天間の返還、跡地利用、まちづくりの歴史的意味を関係者、県民、国民が共有することが大事だというのが私の結論である。
- ・県土の大事な部分が軍用地に占有されてきた結果、生活環境、交通インフラ等、様々な面で歪んだいびつな都市構造を余儀なくされてきた。そこでキーワードとなるのが再生であり、跡地利用を契機に、基地周辺の生活環境改善も含めて、人と自然が調和する良質な生活環境をつくるためのキーワードが緑の回廊ではないか。
- ・半世紀を超えて接収され、専用された中での歴史的返還が予定されていること、米軍基地は沖縄のためではなく、アメリカの軍司戦略と日本の安全保障に寄与してきた、すなわちもっぱら国益に今日されてきたこと、これを再生するということであり、それは国の責務にあることに他ならない。その上で跡地利用において地元が必要とする支援をどう求めていくか、どう組み立てていくかに尽きると考える。
- ・跡地利用は、あるべき県土の姿を取り戻し、県民が望む新しい県土づくりのため、地域社会、経済発展のためである。
- ・環境の再生、都市の再生、平和の再生、具体的には、波松街道、旧集落の復元、回復等の緑の再生であり、自然やアジアの国々の多様な文化との共生であり、その舞台が普天間である。
- ・加えて、中南部都市圏を望ましい都市圏として再生、再編していく象徴であり、試金石が普天間であることに他ならない。そのコアであるところを基本認識としている。

(寺田氏)

- ・水循環の面からはお話ししたい。結論から言えば、普天間の跡地に街を作るのは、ダムの上に街を作ると考えて取り組んだ方がいいということだ。
- ・沖縄県の水利用は、北水南送といって、ヤンバルにダムを作り、中南部都市圏で使うというシステムになっているが、ヤンバルにこれ以上ダムは作れないと思う。では、今後水をどうするかとうと、中南部都市圏でも水の地域自給を考えていかなければいけない。
- ・もとより、この島の暮らしは、地域ごとに天水を貯め、井戸水を組み合わせることで地域の中で自給してきた。この暮らしをもう一度見つめ直していく必要がある。
- ・普天間台地は、琉球石灰岩の台地であり、地下にたくさんの鍾乳洞があり、天然の地下ダムとなっており、水に関しては大変恵まれている。これは大きな資源である。湧水地を見ると、水量水質も良かったが、湧水地の施設が立派な石組みの文化財が残っており、周辺の緑が残っている。湧水地の立派さに感動した。これは宜野湾の大きな宝であり、今後は水源地を巡るエコツーリズムの資源にもなるので、大事にしていくべき。
- ・一方、豊かな水が枯れてしまっている、あるいは鍾乳洞は入るだけでも生活臭がするように、水の汚れが進んでいるようなこともある。自分たちの足下にある水を汚さないシステムを考えること、枯れてしまった水脈の調査を急がなければいけない。
- ・水脈とともに緑とともにそれをつないでいく、水と緑は一体として保存していることに取り組まないといけない。そういう見方をすると、湧水地の辺りは斜面緑地の方に川が点在して

いる。斜面緑地も景観面も含めてどうやって守っていくかを考えなければいけない。最近では斜面に虫喰い状に住宅も入り込んでいるので、この斜面緑地を守ることが水を守ることに繋がる。

- ・跡地に作る街では、雨水は地下に浸透させ、生活で使う水は地下に浸透させないようにし、短いサイクルで循環させ、再生した水を中水道で使うなど、水循環を実現していけることができれば沖縄の水の暮らし方のモデルになる。
- ・普天間台地は川の最上流地に当たる。最近ゲリラ豪雨が頻発し沖縄県内でも水の事故が多発している。普天間飛行場の1/3は、宇地泊川の流域にあたるが、数年前に上流で降った雨が鉄砲水となって川の中で遊んでいた子供が犠牲になるという事故があった。最上流の水の始末の仕方として、鉄砲水にならない、下流が危ない川にならないための水の受け方、なるべく地下に浸透させて川に流れ込まないシステムをどう作るかが、安心、安全まちづくりに取り組む上での責務である。

(呉屋氏)

- ・嘉手納以南で1000ha以上の軍用地の返還が予定されており、これまでにない大がかりなまちづくりに期待している。
- ・基地により都市構造が大きく歪められ、返還予定地に隣接する既成市街地では、狭小でゆとりが損なわれている。これらを解消するため、交通網の再編など、跡地利用を含めた広域的な都市基盤の整備が必要であり、その規模はとても大きい。
- ・返還予定地の殆どが軍用地であり、地権者が多く、広範囲な基盤整備を行うには、関係者は多く、今後の計画的なまちづくりの実現に向けて、関係する方々のまちづくりに対する取り組みが鍵になると考える。
- ・これまでの跡地利用計画は、返還の目処が立たない中で広域的な将来像を描きづらかったが、今後の返還予定地については、広域的な役割をしっかりと示し、それぞれの跡地の将来像を描きやすくする必要がある。
- ・普天間の跡地では、基本方針に(仮称)普天間公園の整備が示されているが、その規模や配置が都市基盤や環境に大きく影響する。その公園の整備効果、可能性など、魅力となる部分の議論や市民、地権者への情報の提供が不足している。

(池田氏)

- ・一通り話を伺ったが、現状と課題について相互の議論を進めたい。寺田氏から跡地について水や緑に関する調査が必要だという指摘があったが、現状では立ち入りはできず、状況が分からない。
- ・外崎氏の基調講演ではCGの紹介などがあったが、具体的に状況を把握するための調査方法についてアドバイスはないか。

(外崎氏)

- ・かなりのことは基地に入らなくても分かる。基地に入らないと分からないというのは、調査しない人の逃げである。分からないなら分からないなりにやればいい。
- ・現在、新興国の都市化を支援するために、日本はどのような情報サービスが提供できるかを研究している。最低限の枠組みを抑えるための情報としては、衛星情報など色々な情報があるのでやれないことはない。

- ・問題なのは、情報を貯めてみんなが見られるようにしていないことである。その都度、調査を行って終わりにするのではなく、今後 10 年 20 年のプロジェクトなのだから、いつどうい調査をしたかという客観的事実と基本的なデータを、将来役立つ情報として整理・公開し、共有することが重要だ。

(池田氏)

- ・上妻氏に伺いたい。呉屋氏から広域的な役割について意見があったが、普天間の跡地利用について、広域的な視点から考えるべきことについてどのようなことがあるか。

(上妻氏)

- ・中南部都市圏には県民の 8 割強の約 114 万人が暮らし、全国の政令市並の人口、面積となっているが、市街地を分断する形で広大な基地があるため、都市の機能、交通の体系、土地利用に影響している。普天間は中南部と北部を結ぶ、ガーデンシティなどの新しい形での新都心として中南部都市圏全体を再生していく場だろう。
- ・その中にシンボルとしての公園が出てくるが、県民の皆さんに支持されるストーリー、歴史的意味合いがほしい。海を主題とする海洋博記念公園、歴史を主題とする首里城公園に続いて、新しい国営公園を作るべきだろう。軍用地の平和転用という意味合いと、国営公園ではないが南部の平和の礎に込められている祈りを昇華し、再生し、進めていく場が必要である。海、歴史に続く、平和・再生をひとつの方向付けとする具体的な場所とする。これは普天間だけの話しではなく、県土の再生を先導していくものだ。
- ・その時に投資の回収、費用対効果など、商業論理だけではできないので、国を挙げて県土の再生をする仕組みが必要だ。その手段として国営公園がある。

(池田氏)

- ・普天間の位置づけは重要で、経済、緑など、沖縄のシンボルとなる位置づけをここにつくっていくことが大事だろう。中南部都市圏の中で、普天間にセントラルパークが必要だと考えている。セントラルパークは普天間だけでなく、100 万都市である中南部都市圏のセントラルパークである。上妻氏からはそれを国営公園として国の責務で整備すべきというお話をいただいた。
- ・ここからは、今後どうすべきかということも含めて議論したい。寺田氏に伺いたい。普天間の中の生態系を考えると、または公園を考える中で、どの程度の規模があればいいのか、あるいはネットワークとして斜面緑地などを繋いでいく形がいいのか、それとも大小の緑とネットワークを繋げていくべきなのか、どういうイメージを持つか。

(寺田氏)

- ・できれば大きな軸があることが理想的だが、跡地に戻って住みたいという地権者がいるので、その意向を踏まえると、例えば、ある範囲を森のようにすることができるのかどうかは不安要素の一つである。那覇新都心の当初計画では、大きな緑地帯があり、緑を大切にしながら進めるとしていたが、蓋を開けてみると緑が小刻みにされていた。そういう観点からも地権者の皆さんとの話し合いが大事になるだろう。
- ・できるだけ実現性の高いことを考えると、地権者の皆さんにどう協力してもらい、小刻みでもいいからネットワークで繋げていけるかということではないか。

- ・水と緑を繋げていかなければ、生態系の再現は難しいので、水脈に沿った緑の保全は基本としてお願いしたい。

(池田氏)

- ・外崎氏に伺いたい。基調講演での生物多様性、CO2削減も絡めても中南部都市圏での普天間の役割は大きい。緑の回廊やネットワークの役割、規模等についてどう考えるか。また、呉屋氏が指摘されたように、公園以外の土地に対して公園がどういう役割を果たすのか。さらには緑の経済的効果、経済的価値をどう持てるのか。

(外崎氏)

- ・10年先の話しは、呉屋氏、寺田氏が指摘するような点につきるが、40年後にはどんな都市になって欲しいかというビデオを見ていただきたい。

*以下、ビデオを見ながら解説。

- ・シンガポールでは、都市の真ん中に森がある。公園ではなく緑の中に都市がある。都市として整備する部分をコンパクトにし、その周りを残している。かなり厳格なマニフェストを40年間維持してきた成果である。道路も緑で覆い、緑地帯をつくり、しっかり管理している。巨大都市の中で緑地を残していくことも彼らの自慢である。
- ・これがアジアの数百万都市のスタンダードであるとし、こういうところにこれから人、資本、知識が集まる。
- ・これは絶滅したかもしれない鳥だが、都市の中で復活させている。シンガポールでも屋上緑化をしている。人工地盤を使った緑地を作っている。セントラルパークもある。自然は人が触れ合い、参加する場であり、空中回廊も作っている。
- ・海岸線は、マリンスポーツは西海岸に行くのではなく、都市の近くにこういう景色があるといい。
- ・埋め立て地には、次の時代を牽引する世界の庭園を作る。生物多様性、都市と暮らしを世界にアピールする新たな庭園を作っている。
- ・都市の中にある自然のひだを踏まえて、どこに人が住むか、どういう街に住みたいか、世界はどういう街を望んでいるかを見据え、10年では難しいかもしれないが、40年先に向かって共通の想いを持てば実現できる。ただし、ブレてはいけない。

(池田氏)

- ・シンガポールは島国の都市国家であり、規模は沖縄と大きな差はない。その中に、ジャングルに近い自然、生態系、海岸線を保全し、少ない土地を高度に利用し、土地の価値が高く、経済活動も盛んな都市である。
- ・今後のことについて、各氏から意見を伺いたい。

(上妻氏)

- ・時間とともに価値が高まるまちづくりをしてほしい。大型店は5年で回収できるように安普請の建物を建て、広い駐車場を作ってやっている。そんなものがいくつ集まっても価値は高まらない。
- ・投資回収、費用対効果ということは避けられないとしても、観光という視点を加味すると、20年、50年、100年先も食べていけるような沖縄観光のために価値の高まるまちづくり

をする。これは次、次の次の世代のために沖縄観光の資産形成でもある。なぜ、沖縄に来たいと思ひ、また訪れたいと思うのか。それは沖縄の先人達が作り上げてきた文化、環境、風景、自然と調和するライフスタイル等の魅力や豊かさであり、それを次の世代、次の次の世代のために作る場が普天間である。おもろまちと同じ場所をまた作る必要はない。

- ・景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年という言い方がありますが、もっと踏み込んで、生態系、水と緑をきちんと都市づくりに組み込むことで、もう少しピッチを上げることができのではないか。いずれにしても時間とともに価値が高まるという意味で言えば、例えばフクギの成長とともに、その場所の価値が高まっていくようなことだ。幸いにして残されている備瀬の集落空間の風景の価値のことを思い起こすと、そういった場所として、今までなかった、あるべき県土を取り戻し、あるべき姿を先取りしていくのが普天間に求められているのではないか。

(寺田氏)

- ・年明けの新聞にショックな話があった。本土に行ってホームレスになった人がガンを患い、沖縄に戻りたいということで皆さんの協力を得て帰ってきたが、故郷の変わりようにショックを受けてまた本土に戻ってしまったということだ。帰ってくるところがなくなるのは辛いことである。島の風景は我々だけのものではなく、故郷を出て帰ってくる人達にとっても大切な心の資源であり、これから生まれてくる子供たちにとっても受け継ぐ財産であり、守って行かなくてはいけないと強く思った。
 - ・そういうことを思いながら普天間でできる事を考えると、市民の心の原風景を再生していくことが大事な作業になる。公園を作ることによって地域のコミュニティを再生していったという事例として、愛知県豊田市の児の口公園（ちごのぐち公園）がある。
- *以下、プロジェクターを見ながら解説。
- ・この公園は真っ平らな運動公園だったが、自然工法で再生して里山の風景を取り戻した。街のど真ん中になぜこういう公園を作ったかという、地域のお年寄り達が、最近の子供は自然のことを何も知らず、無視にも触ったことがない、これではおかしくなるという問題意識を持つ中で、市が公園づくりを提案し、お年寄りから昔の里山の様子を聞き取りしながら公園づくりを始めた。
 - ・公園づくりには市民が多く参加し、8000本のポット苗を植えた。暗渠になっていた川を解放し、その土を盛り上げたところに市民がポット苗を植え、今では立派な雑木林になっている。こういう懐かしい風景が広がると、地域のお年寄りが集まり、自主的に管理組合を作り、管理を始めた。遊具はないが、自然が蘇り、周りの子供を始め、色んな人達が拠ってくるようになった。公園ができたことにより、昔の自然体験を街の中で再現している。
 - ・水辺を中心に生態系が復活し、今では百舌鳥も飛んでくるようになり、バードウォッチングも行われている。再生された川の中に勝手に田んぼを作り、収穫した古代米で餅つき大会をやったり、お祭りをやったりと、色んなことを自主的にやっている。
 - ・この児の口庵は、市役所にもお金を出して貰い、昔風の管理事務所として作ったが、ここにお年寄り達が集まってくる。以前は病院の待合がお年寄りの寄り合い所になっていたが、公園を作ることによって地域のお年寄りが外に出て掃除をしたりするので、皆さん元気になって病院の患者が激減したということもある。
 - ・公園をつくるにあたって、自分たちが参加して作り、寄り合って作業することで地域のコミュニティが再生するしかけが今後重要になると思う。普天間跡地に住宅地ができれば、昔

住んでいた方、県外から入ってくる方が、一緒に住むので、どうやって新しいコミュニティを育てていくのが重要となる。つくることを与えられるものではなく、自分たちの心の故郷の風景をお年寄りから聞き取り調査して、みんなが参加して作り、育てていける場にしていくことが重要であり、そこから街のコミュニティを再生していけるような仕掛けをつくることを期待する。

(呉屋氏)

- ・中南部都市圏のまちづくりは、各跡地や地域がそれぞれの特性を活かし、広域的な役割を分担し、連携によって効果を波及させ合うことが必要である。そのためには、歪んだ都市構造の解消に向け、新たな基幹道路、公共交通などを整備し、交通網の再編や強化によって地域間の時間的距離を短縮させることが必要ではないか。同時に、人のための道という考え方も重要であり、公共交通が発達すると、歩行者、自転車が增加するので、交通弱者とされてきた方々も街に繰り出す機会も多くなるので、人が直接的に利用する道こそ、木陰を作る緑が必要で、それが狭小化した空間のゆとり回復のきっかけにもなり、広域的な緑道といった緑のネットワークづくりに寄与できる。
- ・普天間の跡地開発は広域的なまちづくりの要であり、中南部都市圏の近郊ある発展を先導する役割がある。そこで広域的振興に繋がるどのような機能を導入するのか、まちづくりが先導するどのようなモデルケースとなり、どのような効果をもたらすかを考えていく必要がある。
- ・その一つが広域的防災機能を備えた(仮称)普天間公園があり、コンベンションセンターを国際的な利用にも対応できるようにする補完施設も考えられる。また、広域交通や振興の要として人が往来することを考えると、近隣大学と連携した人材育成機関、あるいは沖縄のシンクタンクとなるような様々な研究機関も考えられる。
- ・(仮称)普天間公園からの様々な効果に期待して、公園を中心に一体的なまちづくりを進めてはどうか。その配置については、集約型、ネットワーク型が叩き台として示されているが、全体に公園の網を被せ、その編み目に必要な土地利用をはめ込んでいくイメージを持っている。その効果として、地区単位の特性を活かしたコンパクトな検討ができること、スプロール化を防ぐことができるということにある。また、活用しづらい場所も緑地などとし、自然環境や文化財の保全できるという効果も期待できる。街全体を公園として感じることができる環境を作ることができる。これが新しい住環境、周辺の狭小化した市街地のゆとり回復、広域的な緑のネットワークづくり等、広範囲に効果が期待できる。
- ・ただし、(仮称)普天間公園については、様々な想いや考え方があるので、公園と一体的に整備するものについて、魅力や効果について議論していくこと、情報発信の方策等を検討していくことが必要である。
- ・1000ha以上の返還跡地、広域的な基盤整備と事業の規模が大きく、国の進化は必要不可欠である。さらに基地の所在に起因しているので、公園用地の先行取得を含めた国の積極的な取り組みにも期待している。
- ・また、関係する方々の主体的な取り組みも重要であり、その取り組みの過程で、理解、協調、協力、協働が促進されることを望む。
- ・事例などから、先進的、広域的なアイデアが歓迎されていても、幹線道路や大規模緑地には難色を示す傾向も見られる。広域的機能導入が付加価値を高める等、メリット、デメリットを客観的に判断できる的確な情報提供が必要である。跡地利用計画では、全体計画の中間

とりまとめまで来ているが、次のステップに進むためには基本方針を始めとする今までの取り組みの確認確認、周知徹底した上での理解と大枠での合意が必要である。関係する方々、専門家、国、県、市が連携した取り組みの更なる強化が必要だ。

(外崎氏)

(外崎氏)

- ・緑が大事だとは昔から言われているが、言うは易しで掘み所がない。CO2削減は分かり易いが、生物多様性は分かりづらく、これまでアプローチが遅れてきた。
- ・世界の色々な地域で生態系や生物多様性を経済的に評価すること（TEEB）が試みられている。
- ・例えば、ブラジルやインドでは雨水排水のために緑地を残した場合、洪水調整のコストが50年スパンで安上がりだということが、最近の研究で分かってきた。また、ウガンダで絶滅危惧にあった湿地を埋め立てて街や下水のプラントを作る計画をしていたが、計算したところ、湿地を残して汚水処理すると、年間維持費200万ドルが必要なくなるとなった。
- ・トータルのベネフィットを考えたとき、生態系の経済価値が50年100年のスパンで考えたらどうなるかということが研究実績として上がってきている。
- ・ベトナムの低湿地帯では、巨大な堤防を作り維持管理することよりは、マングローブの木を植えた方がコスト的にも持続性がある方法となった。
- ・この100年間やってきたことを日本でも考え直し、いらぬインフラをやめて効率的な仕組みを考えるべき時代ではないか。新たなインフラを作る時には、どこかをスクラップすることを考えるべき時代である。
- ・東京に物を言い、東京から学ぶのではなく、世界の色々な知恵をここに集め、その知識に基づき県土を再編・再生し、その都市づくりの実績をアジアなり、途上国に示す、そういうまちづくりのシンクタンクを作るべきではないか。欧米のシンクタンクはアジアの高温多湿の風土や多神教の文化を知らない。アジアの気候、風土を上手に活かしたまちづくりができるかできないかが、今後の100年200年のアジアの発展にとって重要だ。先人達が1000年続けてきた琉球の風土を活かした地域づくりが本物ではないか。
- ・そこを狙うのか、短期決戦の目先の利益を狙うのか、普天間の跡地利用の大きな分かれ道だ。

(池田氏)

- ・会場の皆さんから質問はないか。

(会場：市内在住の方)

- ・おもしろまの道路はアスファルトで舗装され、交通渋滞が始まっている。また、歩行者、特に高齢者にとって横断歩道橋は使いにくいいため、道路を横断して交通事故に遭ってしまう。自動車交通は地下を通し、地上歩道、自転車道にすることは考えられないか。問題は駐車場をどうするかだが、色々考えられるだろう。
- ・飲み水を洗濯、トイレと糞尿に使っているが、これを2つに分ける方法はないか。飲み水と洗顔等と、それ以外の水は天水も使えるのではないか。

(寺田氏)

- ・沖縄でも中水道が整備され始めている。新都心のトイレでも中水を使っている。水の使い分

けはこれからやっていかないといけない。

- ・ 普天間の地下には豊かな地下ダムがある。地下道は地下の水脈を断ってしまうので別の方法を考えた方がいい。
- ・ ヤンバルからの水は飲み水やお風呂に使い、それ以外は自分たちで賄うことを考えるべきだろう。水の使い方を考え、天水タンクや井戸うまく使えると思う。沖縄の水の使い方のモデルを普天間で考えて行って欲しい。

(池田氏)

- ・ 地域下水という考え方がある。これだけ広大な土地だと、地域に降った雨、流す水、下水処理を全て集め、浄化し、再利用できる。天水、地域下水、地下水等、多様な水の活用を考えていくことも環境モデル都市の要素かもしれない。
- ・ 道路を地下に作ることもアイデアかもしれないが、地下水脈を切ることは問題だろう。
- ・ 他に質問はないか。

(会場：公務員 0B の方)

- ・ 跡地利用では失業対策が大事ではないか。外国に移転している、特に郊外を出さない自動車、電子機器等の組み立て産業を誘致してはどうか。また、海水に溶けている鉱物を採取する技術が進んでいるので、そういう技術を活かした産業はどうか。海洋深層水をエビの養殖に利用し、飲料水にしている。

(会場：県職員)

- ・ 今日は、大規模公園の中をどう整備したらいいかという観点から興味深く話しを聞いた。中南部都市圏を牽引する都市としての公園のあり方はどうあるべきか。また、地権者の皆さんに協力いただく上で、どういう公園であれば納得いただけるものにできるか。

(会場：県職員)

- ・ 跡地の農業的な利用は考えられないか。都市農業、市民農園が見直されている。安心・安全な食材を求めて自分たちで作るということもある。中南部都市圏の特色あるモデルとして、今後のライフスタイル転換のためのツールとして考えられないか。

(外崎氏)

- ・ 失業問題については、県庁の方に相談いただいた方がいいだろう。
- ・ 組み立て産業は相対的に賃金の易いところに動くので、いつまでもそこにはいない。沖縄に組み立て工場ができて、いずれ出て行くことになる。
- ・ アジアでは豊かな人達が増えているが、そういう人達が沖縄に来たいのか、沖縄に見向きもしないのか、そこが大事なポイントである。アジアの時代になったときに振り向かれる都市になるためには、アジアのテイストは何か、これから豊かなアジアの人達が何を求め、沖縄に何を期待するのか。そこに持続的な発展のキーワードがあるだろう。
- ・ 都市型農業について関連すると、日本の食材は高くてもブランドとして通用する。沖縄の品種、在来の野菜を復活させ、宜野湾ブランド、沖縄ブランドで少々見かけは悪くてもおいしいという方向で広めてはどうかと思う。
- ・ セントラルパークは、市民が使うが、外から見に来る公園でもある。

*以下、ビデオを見ながら解説。

- ・これは、シンガポールの園芸技術とハイテク技術を組み合わせた次世代型の植物園である。こういう施設は、エンターテインメントと環境教育と人材育成とトータルの効果を狙っている。こういうエンターテインメント性のある植物園のような施設が沖縄にあるといい。

(池田氏)

- ・公園の機能についても含めて最後に一言ずつお願いしたい。
- ・私からも一言。大規模交換の持つ意味は、端的に言って減歩対策だと考える。跡地利用は区画整理事業の活用が一般的だが、大規模公園を国の責務も含めて誰がやるかをしっかり考えないといけない。みんなで負担するというのは、口当たりはいいが、どう実現するかをしっかりと議論しないとイケない。規模の議論はなかったが、200ha はないと中南部都市圏のセントラルパークにならないと考える。今日も議論があり、まとった箇所、ネットワークも必要で全部でそれくらいの規模ということかもしれないが、大事なことは都市の中の公園であることで、ニューヨークのセントラルパークはそれを目指した。
- ・これに加えていくこととし、市民農園、文化、学園、研究施設等が公園の中にあっいい。自然や緑だけでなく、産業的な機能があってもいい。エンターテインメント性のある集客機能があってもいい。ただし、寄せ集めではいけない。
- ・ヨーロッパでは、みんなこぞって大規模公園をつくる。公園に面した土地き価値が高まり、マンションやオフィスの価値も高くなるからである。第一の起爆剤として大規模公園のことを考え、周辺の土地のことを考える。公園が付加価値を高めることを認識する必要がある。

(上妻氏)

- ・公園、普天間全域は、沖縄の思想に裏打ちされた者であって欲しい。また、亜熱帯なり、アジアなり、今後あるべき姿を示すような沖縄スタイルを指向する。
- ・事業期間について、過去の返還地の返還から事業完了まで平均 14 年、那覇新都心では 20 年と聞いている。これが長いと言われるが、これから 20 年、30 年と作り続けていく中で、価値や環境が高まるような支援、権利者や地元の負担をどう軽減するか、長期化する事業期間の中でも成り立つための支援を高じるべきであり、それは国の責務である。

(寺田氏)

- ・大規模公園ができることで、中南部都市圏に水と緑のネットワークを広げることが期待する。
- ・返還されたから地権者に自分でやれというのは無理があるので、国の支援においてバックアップしてほしい。
- ・普天間の周りには水を活かした農業があり、付加価値の高いものを作ることができると思う。沖縄の野菜やもずくが香港でも大量に販売され、価値も高まっていると聞く。安心・安全な食を売りにした沖縄ブランドが求められているのではないかと。また、観光と組み合わせたエコツアーの中で、訪れた人達に農業体験してもらおうという、水を活かしたプログラムも楽しいと考えている。

(呉屋氏)

- ・国の責務について言えば、広域的な基盤施設整備、公園用地の先行取得も含まれるだろう。
- ・普天間公園から始まる中南部都市圏のまちづくりと言っても過言ではなく、公園の整備が先

導するまちづくりと考える。

- ・公園の規模については、100ha 以上を目指すとするが、まとまってないと公園の魅力はないだろう、逆に全体に広がっていないと様々な効果が出ないという意見がある。ではまとまった規模として100ha 必要なのか、拡がり部分で50ha 必要なのか、というようなことを考えると150ha くらいになるのかと思う。
- ・情報発信に関しては、発信だけでなく、受ける側についても考える必要がある。本日のことも持ち帰っていただいて、公園、跡地について皆さんにしっかり考えていただきたい。

(外崎氏)

(外崎氏)

- ・区画整理的手法では事業が遅すぎる。
- ・大阪では、市全体の容積率を下げる実験をしようとしている。容積率が余ってきているので、大阪市のリニューアルをどのようなするかということで、現行よりも容積率を下げ既存不適格の状態にし、同様の新築をする場合には何かパブリックなことをしてくださいということである。ブラジルでは開発権の移転ということで、パブリックなことをやった人にボーナスを上げている。
- ・例えば、普天間の緑地のエリアに土地を持っている方は不安だろうが、その土地を何らかの形で取得しないと戸建しか建てられない、ないしは中部都市圏としても何かしらしないと2階建て以上は建てられないという網を被せる。開発をしたかったら、何らかの費用を負担させることで、今緑地を持っている方の権利が保全され、経済的に廻るといいう仕組みができるかもしれない。
- ・日本の今ある仕組みだけでなく、世界に目を向けて研究、勉強することが大切だ。
- ・ソウルでは返還基地を公園化することで政府とソウル市が、それぞれやると奪い合いをしている。これからの都市には公園がないといけないことはソウル市も自覚している。デザインと環境の都市ソウルは、見違えるように街が変わってきている。

(池田氏)

- ・本日の議論は4点ほどにまとめられる。
- ・中南部都市圏の中でどう考えるか。交通、産業、環境、水・緑とある中で、環境モデル都市ということを受け止めて考えるべきではないかとういこと、また中南部都市圏のセントラルパークとして考えていってはどうかとういこと。
- ・普天間公園に対する期待、ニーズについては今日もあったので、規模、機能については、今後大いに議論すべきとういこと。
- ・議論するにあたってのシンクタンクのような機能が必要ではないかとういこと。
- ・結論的には、議論をしっかり続け、情報をしっかり開示していくこと。また、世界的な視点に着目し、それらの知恵に学ぼうとういこと。
- ・以上をもって締めくくりたい。

以上

4. アンケート調査の概要

1) アンケート回答状況

◆ アンケート回答者は、142名

第7回県民フォーラムには、約280人※の県民・市民の方々の参加を得た。会場では、『県民フォーラムに関するアンケート』を280通配布し、51%に相当する142通の回答を得ることができた。※出席者名簿、名刺及びその他配布資料に基づき算定

実施日	：	平成23年2月7日（月）	
配付数	：	280通	（参加者に受付で配布）
回収数	：	142通	（会場にて回収）
回収率	：	51%	



▲受付の様子

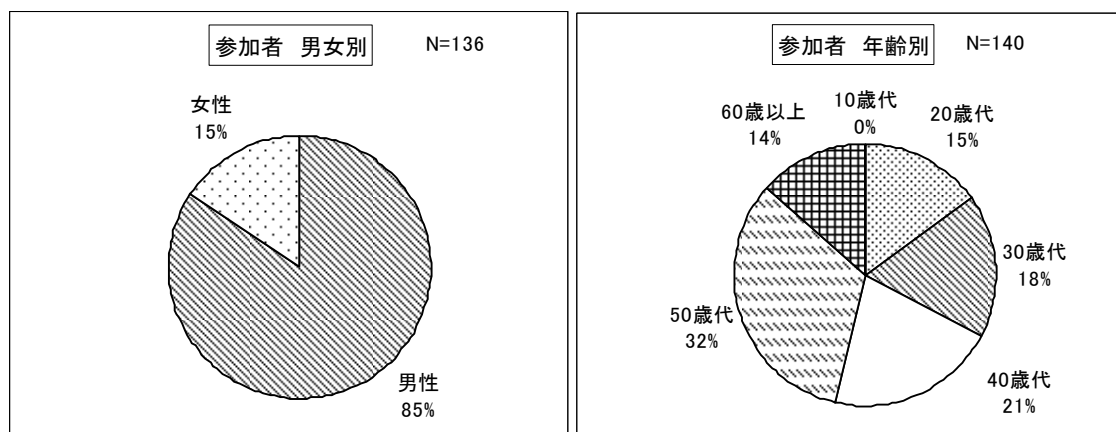


▲会場の風景

◆ 回答者の属性は、男性、宜野湾市在住が多い

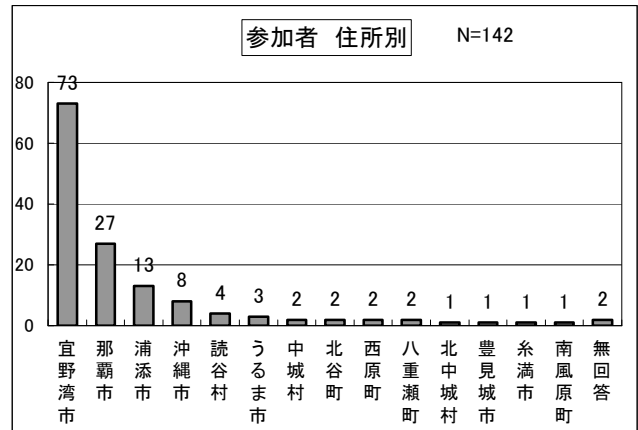
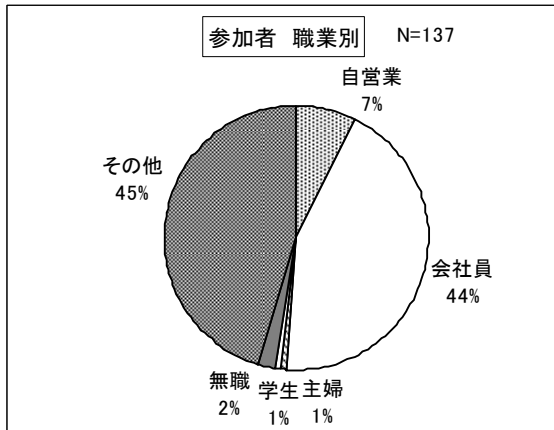
フォーラムへの参加者のほとんどが「男性」であり、アンケート回答者も85%が「男性」であった。

また、年齢別構成を見ると、50歳代が32%と最も多く、次いで40歳代が21%、30歳代が18%、20歳代が15%、60歳以上が14%であった。



職業別では、その他が45%と最も多く、会社員が44%、自営業が7%である。

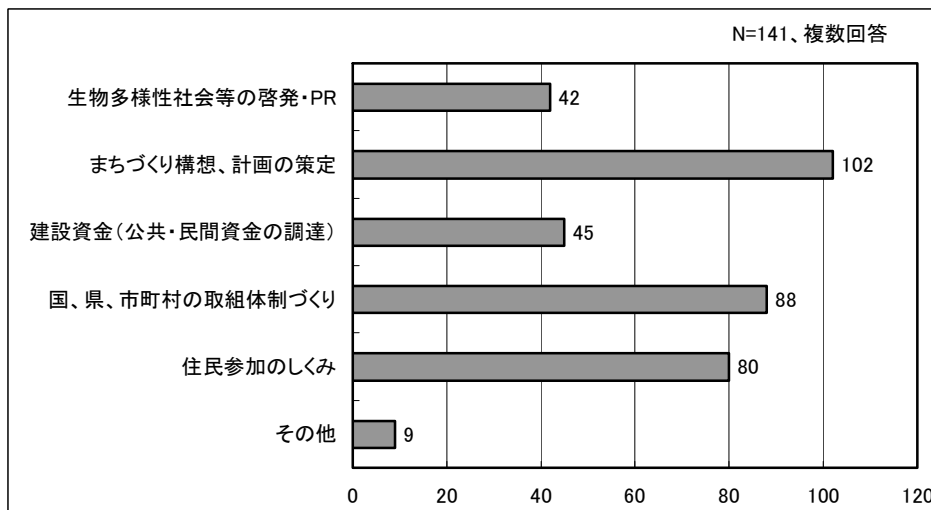
居住する住所別では、普天間飛行場の所在地であり、フォーラムの開催地でもある宜野湾市民の参加が圧倒的に多く51%を占めている。



2) 沖縄県の振興や宜野湾市の将来像実現のために重要なこと

◆ 国、県、市の取組体制のもとまちづくり構想、計画策定を望む意見が多い。

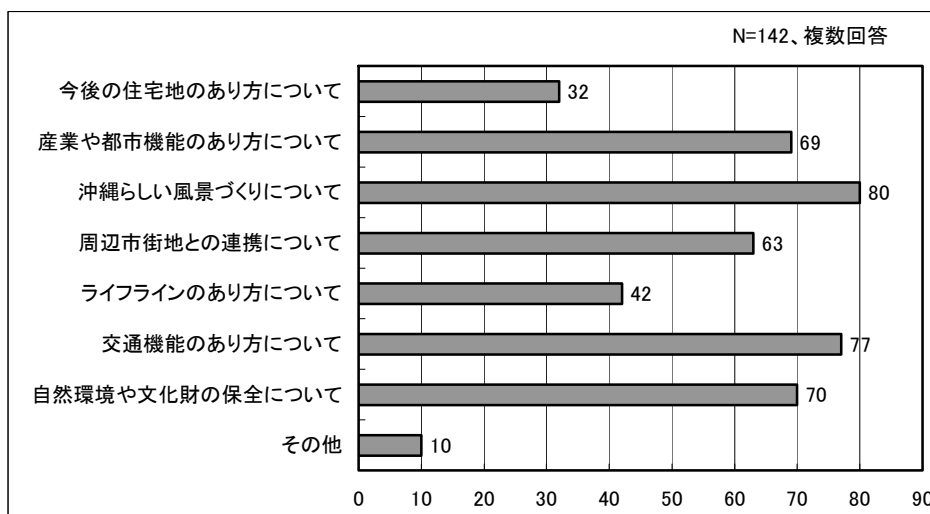
今回の県民フォーラムをふまえ、沖縄県中南部圏や普天間飛行場跡地のまちづくり（緑のネットワーク構想）について、何が重要であると感じになりましたか？当てはまる番号を全てに○印を付けてください。『沖縄県中南部圏や普天間飛行場跡地のまちづくり（緑のネットワーク構想）について、何が重要であると感じたか』という問いに対しては、「まちづくり構想、計画の策定」が102件（72%）と最も多く、次いで「国、県、市町村の取組体制づくり」が88件（62%）、「住民参加のしくみ」が80件（57%）となっている。多くの方が今回のフォーラムでの講演内容に共感したことがうかがえる。



3) 普天間飛行場の跡地利用に関するフォーラムの今後のテーマ

◆ 今後のテーマは、「沖縄らしい風景づくり」がトップ

県民フォーラムを今後も継続的に開催する場合、『普天間飛行場の跡地利用に関してどのようなテーマを取り上げたらよいか』との問いについては、「沖縄らしい風景づくり」が80件（56%）と最も多く、次いで「交通機能のあり方」77件（54%）、「自然環境や文化財の保全」70件（49%）となっている。



4) 自由意見について

自由意見では、以下のような意見が寄せられた。

① フォーラムの感想・要望

公園を中心とした視点での跡地利用構想については、参考になった、面白かったという、肯定的意見が多かった。

今後のフォーラムについては、他地区事例なども参考にしたより具体的な話を聞きたいという意見が多かった。又、地元、沖縄県の方のパネリストを希望する意見もあった。

② 今後のまちづくりに対する意見

跡地のまちづくりに対する意見としては、国、県と連携しつつ、地権者を含め若者から高齢者まで、多様な市民の意見を取り入れて計画を進めるべきであるという意見が多くみられた。また、まちづくりには道路等の基盤整備が重要であり、それについては国の責任で行うべきであるという意見も目立った。

自由意見のリスト

1. 本フォーラムの感想

① フォーラム全般

住所	職業	意見・要望
宜野湾市	会社員	公園を中心とした視点での跡地利用というのは面白かった。50年、100年のタイムスケールで、物を考えるべきだ。
宜野湾市	その他	シンガポールのように緑も残しながら、都市としての機能も充実しているキレイで自然と共存したまちづくりが出来ると素晴らしいと思う。
宜野湾市	その他	CGを使って昔の宜野湾の街並みや集落を復元したビデオがとても興味深かった。跡地利用計画をたてる上で、そこに普天間基地があったという歴史的な意味合いを持たせ、県全体の再生を図るということにすごく共感が持てました。
宜野湾市	自営業	今後「フォーラム」があったら時間を割いて参加していきたいと思います。普天間住人でもっともっと勉強していきたいと思います。
宜野湾市	無回答	4人それぞれの意見があり、跡地利用についての計画を具体的に明確に説明されていたので、跡地利用について関心が多いに持てました。基地が無くなれば、交通の便も良くなると感じるし、跡地をどのように再生していくかによって宜野湾の発展につながっていくのではないかと思います。美浜、新都心に続く大きな都市になって欲しいと思います。
宜野湾市	会社員	シンガポールの緑ある町づくりは今後参考になるのではと思います。ただ返還の先行きが見えない状態なので、宜野湾市、市長は反対の行動だけでなく早期返還に向けて現実的な取り組みを行なってほしい。
宜野湾市	その他	いつまで続く普天間フォーラム、官製品。南から北からもう手をつけて「その時」まで続けていける「人の仕事作り」次の50年まで。
那覇市	会社員	良い町づくりの例をビデオで見せてもらって大変参考になった。年が経つと共に価値を生む街づくりを考えるべきと認識を新たにしました。
宜野湾市	会社員	ガーデンシティという考え方はとても良いと感じた。沖縄だけでなく、アジアや世界に向けて意見を交わし合いながら、検討できたら良いと思う。ただし、目新しいものではなく、原風景の再生の考え方や、何が求められているかを明確にした上で、規模や内容を住民と共に考えていくべきだと思う。
那覇市	その他	寺田さんのダム建設のお話は、興味深いと感じました。湧水を上手く活用すること、水と緑の共存、共有をうまくできればと感じました。住宅地や商業地としてだけでなく、自然を残す開発はとても重要だと思いました。とても広大な土地があるので、ダム公園、県民が活用できる公園をつくることもおもしろいなと思いました。
宜野湾市	会社員	シンガポールのような、ビルがいっぱいある都市だけど、自然も一緒にある街はすごく良いなあと思いました。今までは、普天間基地の跡地は、ディズニーランドを作ってほしいなあと思ってましたが、今日のフォーラムに参加してみて、やっぱり沖縄らしい観光客がたくさん来てくれるような施設が良いのかな？と思いました。
読谷村	無回答	パネラーの皆さんの誰もが、基地の跡地利用としての可能性に、前向きなのが印象に残った。ガーデンシティ等、かなり積極的な話でしたが、外崎さんの言う通り、人口が増えないという話もありえるのかとも思った。都市が、再生産も含めて、生きていく経済に関する言及が少ないのが気になった。上妻さんの話は、もっと詳しく聞きたかった。
宜野湾市	会社員	私も緑および水のある都市はすごく魅力的だと思いました。しかし、このような都市をつくるの

住所	職業	意見・要望
		は県民一人一人が協力していかないと難しいと感じました。でも、これからの宜野湾がどのように変わるのか、楽しみです。
宜野湾市	その他	公共用地の確保、地権者の希望する土地活用など課題はありますが、水・緑ネットワーク、生物多様性、保全をいかに経済にリンクさせるかが重要かと思いました。(公共用地の先買い。一律買収が可能であれば、大きな解決手段ですが・・・)
宜野湾市	その他	理想と現状の差を埋めるには、すごい努力が必要だと思った。普天間跡地の県土再生は平和という意味でも、県民にとって意味のあることだと感じました。
宜野湾市	その他	いろいろな角度、視点からのフォーラムは、大変勉強になります。返還後、速やかな跡地利用計画が実現できるように、このようなフォーラムは必要と思います。今回は大変有意義でした。
西原町	会社員	普天間飛行場跡地利用の位置付けが、今後の沖縄、アジアにとって、とても重要な事であることを感じました。
那覇市	会社員	公園や水資源を利用した施設づくりは、素晴らしい。しかし、支出があれば収入も必要です。具体的な収入面も一方では提案すべきと考える。
沖縄市	その他	基調講演がもう少し、跡地利用に結びつける話がほしかったと思う。
宜野湾市	学生	今回参加してみて、普天間基地の跡地利用に私の考えではない、多様な見方をすることができて、とても良かったと思う。単に開発ではなく、緑を取り入れることが、かなり重要になってくるのではと強く感じた。
宜野湾市	その他	たいへん夢のあるお話を伺いました。県民が(地権者含め)長い視点で、目先の利益にとらわれないまちづくりを進めるための体制づくりが、是非とも必要だと思いました。住民の意識が問われる時だと思います。

② 今後のフォーラムへの要望等

住所	職業	意見・要望
浦添市	会社員	今回のフォーラムは素晴らしいものでしたが、もっと具体的な内容に踏みこんで欲しかった。また、意見として同じ方向性のパネリストが多かったため、もっと様々な意見、立場の方に討論してもらいたいようなフォーラムの方がより意義がある様に思います。
うるま市	その他	・基調講演は楽しみにしていたが、マシントラブルにより聞きとることが出来ず残念でした。事前のチェックを十分にお願したい。 ・パネルディスカッションは、色々な意見が出て大変参考になりました。
宜野湾市	その他	講演かフォーラムか、いずれかに時間をかけて欲しい。
那覇市	その他	「中南部都市圏のまちづくり」がテーマなのか、「普天間のまちづくり」がテーマなのか、よく分からなかった。しっかりとテーマをしぼってほしい。
那覇市	その他	フォーラムのあり方について ・基地内は民地であり地権者がいるが、その方の意見はどのように反映させているのか？構想の段階から参加すべきではないか。 ・緑、公園？→何のために行うのか、またまちづくりの全体のコンセプトとの関係をもっと分かりやすく説明してほしい。 ・外崎氏が述べていた“米軍は既存の地形→自然(地形、地質も含めた)に逆らわない順応的な使い方を何故行なったか検証してみる必要もあるのではないかと”をほぼそのままで利

住所	職業	意見・要望
		用している”が、これからの跡地利用で重要となる→水象、文化財、風景について保全の観点から有利である。 ・創出と保全を分けて議論すべきであった気がする。
宜野湾市	会社員	普天間飛行場跡地利用は、沖縄全体の県土構想のあり方を含めて検討する必要がある。しかし、今回のフォーラムは、非常にローカルな、宜野湾市民の啓発が主な目的なの？という内容だった。せめて、中南部の市町村へのPRもしっかりとやって、もっと大きな議論をやるべきではないか。でも今日はそれなりに勉強になった。
宜野湾市	無職	・理想、理念、観念論的フォーラムから、より具体的なフォーラムができないか…ムリ？ ・もろもろの再生を…しかし、今後いや現状はIT社会進行中！！再生とIT社会にマッチした街づくりを望む！！
宜野湾市	その他	多くの県民が参加できる様に、平日ではなく、休日(土・日)に行ったらどうでしょうか。
読谷村	会社員	普天間だけの問題でなく、すべての戦後の沖縄県が跡地利用計画を、地主や市町村にまかすだけでなく、国、県あげて進めていかなければならないと思う。返還後は3年間の金額で終わってしまって、地主に対しての支援が必要と思います。跡地利用が進んでない現状です。今後、フォーラムなどを市民全体で考える場をお願いします。
宜野湾市	会社員	標題とパネルディスカッションの内容があっていなかった様に思われました。⇒経済的な話も必要では。 県、市が跡地をどの様に考えているか聞きたかった。
宜野湾市	会社員	調査研究の状況を知る事が出来、いろんな方々の意見を聞く事が出来、よかった。フォーラムを開催する事は意味深く、是非続けてもらいたい。今後、自然環境や文化財についてのフォーラムを期待したい。
浦添市	会社員	県民の考えを問う前に、これまで県や市が作成してきた計画や、調査の内容を公にすべきでないか。(誰もが簡単に知れるようにすべき) 県はどうしたいのかを発言してほしい。県や市がぶれていて、「県民フォーラム」はない。
宜野湾市	その他	悪くはなかったが、確かに学識者かも知れないが、沖縄産の学者はいないのかなー。時には沖縄を知っているウチナーンチュ学者も出してほしい。ヤマトが創るウチナーか。(かろうじて上妻さん GOOD)
宜野湾市	その他	まちづくりの理念等については理解するが、具体的にどのように進めれば良いか？もう少し具体的な話が聞きたい。
浦添市	会社員	今(現在)の感想。跡地利用については、絵にかいたもちの議論となっている。(毎回) 国、県、市がバラバラ。もっと現実性をもって話して(考えて)ほしい。
宜野湾市	その他	もっと市民と行政が共にまちづくりについて、意見交換ができればいいなと思いました。
宜野湾市	その他	※参考となる街、村等を類似で見せてほしい！！
宜野湾市	自営業	能動的に参加できる機会という意義においては、今回のようなフォーラムは継続していく必要を感じた。まちづくりや、最終の都市形成構想は夢が持てていいのであるが、実際には、土壤汚染調査や土地確定調査、文化財発掘調査等、不確定要素を含む工程が想定されるので、実態に則した検証が急務。

2. 跡地利用に対する意見

① 今後のまちづくり全般について

住所	職業	意見・要望
宜野湾市	無職	1、普天間基地の早期返還に伴う普天間地域の発展への取組み(案が先走し、年次計画が無い。先が見えにくい。) 2、集客集めの産業や都市機能 (2)～(3) 3、交通機能を進め、周辺市街地との連携(モノレール等を那覇→宜野湾市→沖縄市まで伸ばし、広大な都市構想の検討)
宜野湾市	その他	墓地、霊園等の施設
北谷町	自営業	・中南部都市圏の多様な都市機能を兼ね備えた「拠点」の形成 ・沖縄を代表とする面的なランドスケープ、環境の配慮 ・沖縄の自立経済の発信となる場、システム、ソリューションの形成
西原町	無回答	都市を作るにしても住宅街を作るにしても、まずは道を作らなければならないと思います。その建設資金をどこから捻出するのか、いくら必要なのか、どのような形にしていくのか、というのが大事なのではないでしょうかと思います。
那覇市	会社員	・町作りにおける生物多様性保全は、大変重たいテーマだと思います。具体的、どの分野での町作りが必要なか見えないところがあります。 ・都市計画を策定する上で、いろんなしぼりがある様に思えますので、都市計画特区等を設定してみたいかでしょうか。景観形成条例は法で規制する事が難しいので、特区の中でしぼりを設けたらいい。※基地は生物多様性保全は関係ないのでしょうか？ ・エネルギーの地産地消はテーマにならないのでしょうか？
宜野湾市	自営業	普天間飛行場跡地に第2 沖縄コンベンション平和センターとして10万人程を集客する沖縄ドームの建設の計画を目玉にしたらどうでしょうか。①国際的なコンベンション会議②芸術的なコンサート③プロ野球の公式戦④J1の公式なサッカー等。駐車場も1万台等の大駐車場を確保する。東南アジアの核となるような、100年、200年後のことを計画した沖縄県の新都心になるような、町づくりの計画を考えていければと思います。子供達、孫達に夢を持たせ、正の遺産を残したいものです。ありがとうございました。
宜野湾市	その他	若人から老人まで魅力ある街づくり取り組んで。
那覇市	その他	市民農園的な利用も考えられないでしょうか？
宜野湾市	その他	「この町に住みたい。またこの町に来たい」と思える様な町づくりを期待します。
宜野湾市	その他	40～50年後を見据えた緑の地域、住宅地域、商業地域を併せた都市づくりをすべき。
宜野湾市	会社員	普天間基地跡地を利用して、宜野湾市がもっともっとステキな市になればいいなと思います。
中城村	その他	中南部都市圏のまちづくりには、道路網の整備も重要と考える。特に中部においては、普天間飛行場が中心にあり、南部、北部に比べ、道路の整備が不十分であると思う。宜野湾市を中心とした、道路の整備(国道58号、330号、329号の連結)近隣市町村との関係も重視してほしい。
宜野湾市	会社員	「緑の回廊」のイメージがいまひとつ湧きにくい。跡地利用のまちづくりから連想するに、那覇市新都市や、北谷町美浜周辺の発展ぶりを考える人が多いなか、普天間跡地を中南部都市圏のなかでどのような、独特なポジションで町づくりをしたいのか示すべきである。
浦添市	その他	国連機関ないし、国際的施設をもってきてほしい。
無回答	無回答	ふるさとを守る街づくりをして行きたい。

住所	職業	意見・要望
浦添市	会社員	緑の再生、緑の回廊は理想であるが、現実には厳しい。国家的にまちづくりが出来れば、沖縄独自の緑、海、水を活かした素晴らしい都市が出来ると。これにつける！
浦添市	会社員	リーダーシップを発揮して、レベルの高い利用をしてほしい。
宜野湾市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県内、日本国内、及び国外の色々な都市開発及び、再開発等で成功事例も多数有るが、普天間飛行場跡地を含め、嘉手納以南の跡地開発については、世界的に見ても特殊なケースでもありと考えられる。 ・跡地利用で地権者や市民、県民が豊かになる事は重要であるが、更に発展させ日本国内や東南アジア迄広げて、恩恵を受ける様な開発が必要だと思う。 ・正義の心で全体及び個人を尊重し、開発していく方法が大切だと感じる。
北谷町	その他	普天間飛行場跡地利用は、①沖縄の魅力を最大に生かした風景、文化、伝統を取り入れた街づくり。②鉄道等公共交通の整備のモデル地区とすること③これまで米軍基地を押し付けてきた日本政府に、整備費用を負担させることが重要であると思います。

② まちづくりの方法について

A. 進め方

住所	職業	意見・要望
那覇市	会社員	飛行場移設を前提とした本フォーラムに当たり、最大懸念事項である移設先が定まらないまま、本跡地利用計画策定を行っても絵に描いた餅にしかならない可能性も充分考えられる。国策と県策との乖離が表面化している現在、その打開策に向けて、県行政もしっかり取り組んで欲しい。また、昨今、軍用地が不動産投資として、地権者が県外にも点在していると聞いている。地権者同意の取り付け方にも県、市の対応、施策も詰めていって頂きたい。目指すはシンガポール！目指せグローバル視点！
宜野湾市	会社員	<ol style="list-style-type: none"> 1、基調講演、パネラーのお話は大変参考になりました。 2、跡地利用は地域住民、地権者等の意見を集約しながら 100%国の責任で行なうべきである。 3、普天間基地は飛行場であり、那覇の新都心の開発とは比較にならない程、金と時間がかかる。
宜野湾市	会社員	毎回のフォーラムで跡地利用計画で…国の支援は？明確にして欲しい。地権者にこれ以上の負担を求めるのか、疑問である。基地の現状回復までと基盤整備、環境整備等は全部、国の責務として要求できるのか？
宜野湾市	会社員	今回の外崎さんからの、シンガポールの状況は素晴らしいものと思いました。振り返って、これを実現させる為にはかなり強力な構想、計画が必要だと思います。ぶれない、たずさわる機関なり、計画がつくれるかポイントになるのかな？住民参加が一番重要になるが。
沖縄市	自営業	計画づくりには、県の職員でも、農林水産課の職員や、多様な立場の人からの意見を取り入れる。また、国の職員も入れては？
宜野湾市	会社員	<ul style="list-style-type: none"> ・若者だけでなく、高齢者(人生の先輩方)の意見も取り入れて(知識・知恵)→この意見記入後、寺田さんのビデオを見て、確信しました。本来の自然の姿に近い街づくりを進めてほしい。そして、他国の成功例を多くデータを集めて、取り入れてほしい。 ・跡地利用計画の途中経過を、県民に広く広報して、意識を向上させる事も必要ではない

住所	職業	意見・要望
		しょうか？(今、何をどう話し合いされているのか、知らない方が多い。私もその一人です。)・フォーラムに参加して、昔の風景を振り返り、今後について考えるチャンスになりました。参加させていただきありがとうございました。
うるま市	会社員	今後も県・市・市民(県民)が一体となって、積極的な取り組みを行って欲しいと思います。おつかれさまでした。
宜野湾市	その他	<p>広大な普天間飛行場の跡地利用については、宜野湾市のみならず、沖縄県の振興に大きく寄与するものになると思います。しかし、あまりにも広大なので、国からの支援も必要となるでしょう。やはり、大切なのは、住民、市、県、国が連携した、しっかりした跡地利用計画の策定が必要になると思います。</p> <p>※市民、県民向けフォーラムとしては内容が堅い感じがして、興味を持ちづらい点があります。</p> <p>・確かに緑豊かな街づくりは魅力はあるが、どの案も雇用との連携がみられなかった気がする。街づくりを通して、どう雇用を生み出せるかがあればより良い街になると思う。正直、公園が金を生み出すとは思えない。</p> <p>・観光に頼る経済も頭打ちでは？ →真に豊かな街とは？アジアの富裕層のための街なのか？</p>
那覇市	会社員	自治体独自で運営できる町作りが重要だと思います。
八重瀬町	その他	普天間の跡地利用は、これからの沖縄を左右すると思う。もっと広く県民にアピールし、どのような利用が求められているかを調査し、取り組むべきだと思った。
宜野湾市	その他	普天間の跡地利用は、50年、100年先を考えていかないといけない問題だろうと思う。自然と共生した都市をつくることはとても重要だと思う。そのためにも、どう地権者や住民との合意形成をはかっていくかが大切だと思う。

B. 産業（農業・観光・企業誘致等）

住所	職業	意見・要望
宜野湾市	会社員	観光を考慮した跡地利用
宜野湾市	その他	商業化的な都市づくりではない、自然を十分に捉えた、つまり田園都市(農業生産地もあり、生産基地と一体化した二次産業(加工)を可能とした都市=自然型都市=天久新都市は都市づくりの最悪の事例であり参考にすべきではない。
八重瀬町	その他	テーマに関係すると思いますが、なぜ、普天間基地の跡地利用においては、どこの会議においても「農業」についての話がないのはなぜでしょうか。一番大切なことと考えますが。
那覇市	その他	県全体の経済規模の底上げをしなければ、本日の各提言も絵に描いた餅になるような気が…。県経済に大きな影響を与えるくらいの経済区域として、活用することも考える必要があるのでは？
那覇市	その他	沖縄の失業対策として、トヨタ、日産、電子等の組立産業をお願いしたい。

C. 公園・緑化構想について

住所	職業	意見・要望
南風原町	会社員	セントラルパーク、そして連続した緑について実現可能なレベルではなく、理想を限りなく追求した結果としてどうなったか？ どのレベルに落ち着くか。国、県、市、住民が連携する為

住所	職業	意見・要望
		のお互いの努力が必要。
宜野湾市	その他	1、中部圏として県、浦添、宜野湾、北谷、北中城、嘉手納、読谷の各自治体が連携する仕組み(全て都市はリンクしている)づくりが必要。 2、中部の市街地に隣接する広大な面積が跡地であるだけに、現在の社会、環境、全てに影響する。(私の希望は跡地全てを国立公園化して(50年~100年位国が現状の借り上げ)将来の社会に合った、都市化を10年~50年かけて行なう。我々の時代で将来を決めても良いのか?今の中学生、高校生が30代になってからの意見等を汲み上げる事が必要ではないか。)若者の発想にフリーハンドを残す事が必要だと思います。
沖縄市	その他	平和を意識した基地公園(中部圏域を含めた)の建設をしてみてもどうか?(湧水を利用したエコトープ的な構造等)
宜野湾市	会社員	市内の美化を強化してほしい。落書きや、ポイ捨て、歩きタバコなどの取り締りなど。NYの”ブローケン・ウィンドウ理論”を取り入れて、意識改善。また、緑化推進してほしい。
宜野湾市	その他	宜野湾市らしいまちづくり。昔の宜野湾、基地のできる前の宜野湾への復活。シンガポールのように、コンパクトに都市化して、緑たくさんのもちづくり、公園をつくる⇒愛知県。ITやコンピュータではなく、緑、自然を活かしたまちづくり。
宜野湾市	その他	北谷や新都心のように、ビルだらけの利用にならず、エコ(パイオ、太陽・風力エネルギーや人工太陽)と自然を考えた街づくりにしてほしい。商業目的ではなく、自然の多い文化的なまちづくりをし、屋上などへの緑化全額補助の取り組みもしてほしい。立地的にも高台になるので、それを生かしたまちづくり。330の道をどう生かすかなど考えたい。ハイテクノロジーの(建物・公園)→自然素材。モデル地域にしてほしい(自然メインで)市内モノレールを作る。自転車道路、ペロタクシーなど。
浦添市	会社員	ハンビーの跡地は、地形上より海岸線と、その景観を生かしたものになって若者を中心としたタウンが発展していますが、普天間は地下資源(水源)を生かした緑や川など自然をテーマにした方が良くと思います。以前、オーストラリアに旅行で行った際、自然との共存に向けて、政府と地域住民のエコに対する意識がすばらしかったことを覚えています。又、それらの保全と地域がUV対策もすばらしく、全ての公園には、公園全体をすっぽりと覆うシェード(大きな傘)が設置されており、又、保有の動植物も見事に共存していました。私達もアジアに位置する自然を生かし、うまく自然と共存することを目指していかなければと強く思いました。
宜野湾市	その他	自然環境を取り入れるかたわら、地下資源を利用した水の地域自給も大切ではないかと思えます。段々、大山田園もなくなり淋しい思いです。(やはりこれから都市化するだけでなく、自給自足、土作り必要では)
那覇市	無職	自然を取り戻す跡地利用をやって欲しい。
宜野湾市	会社員	・宜野湾市にある緑を大切にしたい(保全)まちづくりをしてほしい。 ・緑(自然)が、産業を引き寄せるまちになってほしい。
那覇市	その他	跡地に、緑に囲まれたまちをつくるのではなく、“緑だけ”にするのはどうかと考えた。跡地ほど大規模な緑地はまれであり、東京の明治神宮の森を目指そう。すでに周囲に成立している市街地から、人々は集まり、憩いの場となりうる。内部にまちをつくらうとすると、緑は不連続のモザイクとならざるを得ず、豊かな生物種を育むことが困難となるのでは? 緑の少ない中南部において、大規模の亜熱帯性緑地が成立すれば、市民のもならず内地からの観光客にとっても魅力的な地となろう。

住所	職業	意見・要望
糸満市	会社員	普天間の跡地利用については、生物多様性の復元を考慮して、山(自然)として再生したらどうか？

D. 地権者について

住所	職業	意見・要望
那覇市	会社員	短期にしろ、長期にしろ、地権者が了解できるインセンティブをどう示すのか。良い構想をつくっても、個人の利益を優先されると、まちづくりは上手くいかない。地権者によるまちづくり組織(経済的な)が重要。公園緑地は、国、県が大きな決意をもって、整備すべき。(環境モデル都市として) これら、公共用地が個人の土地の価値を高めること。また相乗効果を高め、資産価値の高いまちとなるよう、計画を住民と共に推進することが必要。
宜野湾市	その他	普天間が天久新都心とならないためには、地権者が納得する経済的利益と引替えの、大規模緑地の確保を考えます。理念のみでは人は動きません。利益でのみ動きます。そのためには、長年、基地を放置した国の責任の果たし方と県民の強い決意が必要です。